

医療介護総合確保促進法に基づく 福島県計画

令和 4 年〇月
福島県

1. 計画の基本的事項

(1) 計画の基本的な考え方

令和7年(2025年)にいわゆる「団塊の世代」が全て75歳以上となる超高齢社会を見据え、県民一人一人が医療や介護が必要となっても、できるだけ住み慣れた地域で安心して生活を続けることができるよう、「第七次福島県医療計画」、「第八次福島県介護保険事業支援計画」及び「福島県地域医療構想」に掲げた施策のうち、「効率的で質の高い医療提供体制の構築」と「地域包括ケアシステムの構築」に向けた令和4年度の事業計画を策定する。

(2) 都道府県医療介護総合確保区域の設定

福島県における医療介護総合確保区域については、県北区域(8市町村)、県中区域(12市町村)、県南区域(9市町村)、会津区域(13市町村)、南会津区域(4市町村)、相双区域(12市町村)、いわき区域(1市)の地域とする。

2次医療圏及び老人福祉圏域と同じ

(※2次医療圏は南会津を会津と一体とし、会津・南会津医療圏として設定。)

2次医療圏及び老人福祉圏域と異なる

(異なる理由：

)

(3) 計画の目標の設定等

■福島県全体

1. 目標

福島県においては、原子力災害により、若い世代や医療・介護の専門職が県外に流出しており、医療体制整備及び地域包括ケアシステムの構築の前提となる医療介護従事者の人材確保が最優先課題となっている。

避難地域を中心とする医療介護施設の再開や整備を進め、超高齢社会を見据え、限られた医療介護資源を効率的・効果的に提供するため、県内全域で「病床の機能分化・連携」や、「在宅で医療・介護サービスを利用できる体制」を段階的に進めていくことで、医療介護総合確保区域の課題を解決し、高齢者が地域において、安心して生活できるよう以下を目標に設定する。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標

地域の不足する医療機能を確保するため、医療機関における病床機能の転換等に必要な施設・設備を整備し、医療機関相互の役割分担・連携の推進に取り組む。

在宅医療を充実させるため、「キビタン健康ネット」等のICT（情報通信技術）を活用した病院、診療所、歯科診療所、薬局、介護施設等の連携を始めとした医療と介護の連携推進に取り組む。

地域の医療提供体制を確保するため、医療機関相互の役割分担・連携推進に取り組む。

○地域医療構想に基づき令和7年度に必要な病床数※暫定数値

医療機能	現状（H27）	必要病床数（R7）
高度急性期	1,219 床	1,538 床
急性期	12,140 床	5,380 床
回復期	1,699 床	5,157 床
慢性期	4,229 床	3,322 床

② 居宅等における医療の提供に関する目標

病院、医科・歯科診療所、訪問看護ステーション、介護施設等の連携を促進し、医師、歯科医師、薬剤師、看護職員、24時間365日対応の在宅医療体制の構築を推進する。

地域において包括的かつ継続的な在宅医療が提供できるように、多職種連携による在宅医療提供の拠点の整備を推進する。

在宅での療養生活を支える医療・介護従事者の確保・養成に取り組む。

在宅医療・介護連携の推進に関しては、地域医師会等の関係機関との連携が重要となるため、県は関係機関との調整を行いながら、市町村及び地域包括支援センターが在宅医療・介護連携を推進できるよう支援する。

指標名	現状値	目標値	備考
退院調整支援担当者を配置する病院数	53 (H29年10月)	80 (R5年度)	医療施設調査 ※3年毎に調査

訪問診療を実施している診療所数	278 (H29年10月)	340 (R5年度)	医療施設調査 ※3年毎に調査
訪問診療を受けた患者数（レセプト件数）	94,856 (R元年度)	103,000 (R5年度)	NDB
往診を実施している診療所数	285 (H29年10月)	350 (R5年度)	医療施設調査 ※3年毎に調査
看取り数 (レセプト件数)	2,843 (R元年度)	2,900 (R5年度)	NDB

(出典：第七次福島県医療計画 福島県保健福祉部調べ)

③ 介護施設等の整備に関する目標

地域包括ケアシステムの構築に向けて、第八次福島県介護保険事業支援計画等に基づき、介護施設の整備や介護施設の居住環境向上の取組を支援する。

指標名	現状値	目標値
介護老人福祉施設の整備数 ※介護保険対象施設のうち、介護老人福祉施設の整備計画数（累計）	12,987人 (R2年度末)	14,012人 (R5年度)
介護老人保健施設の整備数 ※介護保険対象施設のうち、介護老人保健施設の整備計画数（累計）	7,413人 (R2年度末)	7,413人 (R3年度)

(出典：第八次福島県介護保険事業支援計画)

④ 医療従事者の確保に関する目標

地域医療を確保するために必要となる医療従事者の確保・養成を図り、離職防止、復職の支援に取り組むとともに、職務環境の改善にも取り組む。

医療従事者の地域連携の強化、資質向上及び医療従事者の養成、基礎教育に携わる人材育成に取り組む。

指標名	現状値	目標値
医療施設従事医師数（人口10万人対） ※医師・歯科医師・薬剤師調査	204.9人 (H30年度)	213.3人 (R5年度)
病院勤務の常勤医師数（人口10万人対） ※医育機関の附属病院を除く	95.9人 (R2年度)	106.6人 (R5年度)
看護職員数 (人口10万人対、常勤換算による)	1,282.9人 (H30年度)	1,335.0人 (R5年度)

(出典：第七次福島県医療計画、福島県保健福祉部調べ)

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

地域包括ケアシステムの構築に向けて、参入促進、資質の向上及び労働環境・処遇の改善の視点から、介護従事者数の確保・養成に取り組むとともに、介護サービスの向上及び離職防止の支援にも取り組む。

指標名	現状値	目標値
介護保険施設・事業所に勤務する介護職員数 ※厚生労働省介護人材需給推計ワークシートにおける介護職員及び訪問介護員の推計値（R2年度は厚生労働省介護サービス施設・事業所調査を厚生労働省（社会・援護局）にて補正）	33,249人 (R2年)	36,298人 (R5年度) (需要推計数)

(出典：第八次福島県介護保険事業支援計画)

⑥ 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業

地域医療において過酷な勤務環境となっている医療機関を対象に、勤務医の労働時間短縮のための体制整備に係る支援を行うことで、勤務医の働き方改革の推進を図る。

指標名	現状値	目標値
時間外労働時間 年間 960 時間超の医師が在籍する医療機関	12 病院 (H31 年度)	0 病院 (R5 年度)

(出典：福島県保健福祉部調べ)

2. 計画期間

令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

■ 県北区域

1. 目標

県北区域では、医療介護人材の確保を進めながら、在宅医療・介護連携の積極的な取組について、区域内の全市町村へ拡大するとともに、在宅療養者や施設入所者の緊急時の医療介護連携体制の充実を図る。

市町村数	4 市 3 町 1 村
人口※	465,894 人
高齢化率※	32.3%

※令和 2 年国勢調査結果

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、

地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標

全県平均と比較して一般病床の割合が高い一方で、療養病床の割合が非常に低い。一般病床から療養病床への転換等、不足する医療機能を確保するために必要な施設・設備の整備を支援し、病床の機能分化・連携の推進に取り組む。

【参考】地域医療構想で記載する令和 7 年度の医療機能ごとの病床の必要量

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
404 床	1,462 床	1,667 床	452 床

(資料：福島県地域医療構想)

地域医療構想の実現を図る観点から、地域医療構想調整会議等の合意を踏まえて行う病床の最適化に取り組む際の財政支援を実施する。

② 居宅等における医療の提供に関する目標

在宅医療を推進するため、多職種協働による 24 時間 365 日対応の在宅医療提供体制

の構築を図るとともに、在宅医療に取り組む医療従事者の確保や質の向上のための研修開催を支援する。

③ 介護施設等の整備に関する目標

地域包括ケアシステムの構築に向けて、第八次福島県介護保険事業支援計画等に基づき、介護施設の整備や介護施設の居住環境向上の取組を支援する。

④ 医療従事者の確保に関する目標

人口 10 万人あたりの医療施設従事医師数（平成 30 年）は、277.7 人と全国平均の 252.7 人を上回っているが、福島県立医科大学附属病院を除いた場合は、165.6 人と県平均の 204.9 人を下回り不足している。また、看護職員も同様に不足しているため、医療従事者の確保に取り組む。

指標名	現状値	目標値
病院勤務の常勤医師数（人口 10 万人対）	75.3 人(R2 年度)	83.1 人(R5 年度)

（資料：第七次福島県医療計画、福島県保健福祉部調べ）

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

介護関連職種の有効求人倍率は改善傾向にあるものの、依然として介護人材不足が続いているため、介護従事者の確保に取り組む。（有効求人倍率（R4 年 3 月）：2.96（福島所）、3.20（二本松所））

⑥ 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業

地域医療において過酷な勤務環境となっている医療機関を対象に、勤務医の労働時間短縮のための体制整備に係る支援を行うことで、勤務医の働き方改革の推進を図る。

2. 計画期間

令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

■ 県中区域

1. 目標

県中区域では、医師不足及び在宅医療を担う医師の高齢化が課題となっているため、医療介護の人材確保に取り組むとともに、不足している病床機能への転換及び在宅医療等の充実に取り組む。

市町村数	3 市 6 町 3 村
人口※	519,577 人
高齢化率※	29.1%

※令和 2 年国勢調査結果

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、

地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標

不足している回復期及び慢性期病床を確保するため、急性期病床の機能転換の支援に取り組む。

【参考】地域医療構想で記載する令和 7 年度の医療機能ごとの病床の必要量

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

469 床	1,640 床	1,404 床	1,130 床
-------	---------	---------	---------

(資料：福島県地域医療構想)

地域医療構想の実現を図る観点から、地域医療構想調整会議等の合意を踏まえて行う病床の最適化に取り組む際の財政支援を実施する。

② 居宅等における医療の提供に関する目標

退院調整ルールの普及を通して、多職種連携による地域包括ケアシステム構築へ向けた市町村支援に取り組むとともに、在宅患者急変時の受入病床を確保するため、地域の病院との連携を強化し、在宅療養支援病院や地域包括ケア病棟等の後方病床の整備を支援する。

③ 介護施設等の整備に関する目標

地域包括ケアシステムの構築に向けて、第八次福島県介護保険事業支援計画等に基づき、介護施設の整備や介護施設の居住環境向上の取組を支援する。

④ 医療従事者の確保に関する目標

第七次医療計画等に基づき、医療介護総合確保基金等を活用した確保策を進めていく。

指標名	現状値	目標値
病院勤務の常勤医師数（人口10万対）	122.5人(R2年度)	128.6人(R5年度)

(資料：第七次福島県医療計画、福島県保健福祉部調べ)

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

介護関連職種の有効求人倍率は改善傾向にあるものの、郡山では県内で二番目に有効求人倍率が高いなど依然として介護人材不足が堅調であることから、介護従事者の確保に取り組む。(有効求人倍率(R4年3月)：3.46(郡山所)、1.77(須賀川所))

⑥ 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業

地域医療において過酷な勤務環境となっている医療機関を対象に、勤務医の労働時間短縮のための体制整備に係る支援を行うことで、勤務医の働き方改革の推進を図る。

2. 計画期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

■ 県南区域

1. 目標

県南区域では、医療従事者の不足により医療提供体制が十分に確保されず、患者が県中区域等へ流出する原因となっている。特に診療所医師の高齢化と後継者の不足が課題となっている。医療介護人材の確保を進めながら、往診・訪問診療を行う医療機関数の増加を図るとともに、退院支援の取組を活かし、より一層医療介護の連携を推進する。

市町村数	1市4町4村
人口※	138,770人
高齢化率※	30.9%

※令和2年国勢調査結果

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、
 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標
 病院数及び病床数が少なく、回復期リハビリテーション病床などの回復期機能や、療養病床などの慢性期機能を担う医療提供体制が不足しているため、これらを担う病床への転換に必要な施設・設備の整備を支援し、病床の機能分化・連携に取り組む。

【参考】地域医療構想で記載する令和7年度の医療機能ごとの病床の必要量

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
100 床	387 床	247 床	155 床

(資料：福島県地域医療構想)

地域医療構想の実現を図る観点から、地域医療構想調整会議等の合意を踏まえて行う病床の最適化に取り組む際の財政支援を実施する。

- ② 居宅等における医療の提供に関する目標

在宅医療に取り組む医療従事者の確保や質の向上のための研修開催を支援する。

○県南地方の在宅看取り数の増加 H30：139 件→R4：R3 以上

○白河地区の小児科医師数 R3：11 名→R4：R3 以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

地域包括ケアシステムの構築に向けて、第八次福島県介護保険事業支援計画等に基づき、介護施設の整備や介護施設の居住環境向上の取組を支援する。

- ④ 医療従事者の確保に関する目標

第七次医療計画等に基づき、医療介護総合確保基金等を活用した確保策を進めていく。

指標名	現状値	目標値
病院勤務の常勤医師数（人口 10 万対）	88.4 人(R2 年度)	98.8 人(R5 年度)

(資料：第七次福島県医療計画、福島県保健福祉部調べ)

- ⑤ 介護従事者の確保に関する目標

介護関連職種の有効求人倍率は改善傾向にあるものの人材不足が続いている状況にあることから、引き続き介護事業者の確保に取り組む。(有効求人倍率 (R4 年 3 月)：2.40 (白河所))

- ⑥ 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業

地域医療において過酷な勤務環境となっている医療機関を対象に、勤務医の労働時間短縮のための体制整備に係る支援を行うことで、勤務医の働き方改革の推進を図る。

2. 計画期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

■会津区域

1. 目標

会津区域では、高齢化率が高く、医師不足や医療資源の偏在が課題となっているため、医療介護の人材確保に取り組むとともに、不足している病床機能への転換及び在宅医療等の充実に取り組む。

市町村数	2市8町3村
人口※	232,140人
高齢化率※	35.3%

※令和2年国勢調査結果

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標

回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟など回復期を担う病床への転換に必要な施設・設備の整備を支援し、病床の機能分化・連携に取り組む。

【参考】地域医療構想で記載する令和7年度の医療機能ごとの病床の必要量

(南会津区域含む※会津・南会津区域は一体の構想区域のため)

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
256床	849床	846床	508床

(資料：福島県地域医療構想)

地域医療構想の実現を図る観点から、地域医療構想調整会議等の合意を踏まえて行う病床の最適化に取り組む際の財政支援を実施する。

② 居宅等における医療の提供に関する目標

在宅医療を推進するために、在宅医療を担う医療従事者の確保、養成や普及啓発に取り組む。また、介護を必要とする患者が病院から在宅生活に円滑に移行できるように、医療（病院）と介護（ケアマネジャー）の連携による退院調整ルールの実用を支援し、在宅医療・介護連携の推進に取り組む。

③ 介護施設等の整備に関する目標

第八次福島県介護保険事業支援計画等に基づき、計画的な介護施設の整備や介護施設の居住環境向上の取組を支援する。

④ 医療従事者の確保に関する目標

第七次医療計画等に基づき、医療介護総合確保基金等を活用した確保策を進めていく。

指標名	現状値	目標値
病院勤務の常勤医師数（人口10万人対） （医育機関の附属病院を除く）	103.3人（R3年度）	123.3人（R5年度）

(資料：第七次福島県医療計画、福島県保健福祉部調べ)

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

会津区域では高齢化率が高く、介護人材の更なる確保が必要である。介護関連職種の有効求人倍率も、3倍を超えるなど人材不足が続いている状況にあることから介護従事

者の確保に取り組む。(有効求人倍率 (R4年3月) : 3.12 (会津若松所))

⑥ 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業

地域医療において過酷な勤務環境となっている医療機関を対象に、勤務医の労働時間短縮のための体制整備に係る支援を行うことで、勤務医の働き方改革の推進を図る。

2. 計画期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

■南会津区域

1. 目標

南会津区域では、高齢化及び過疎化が他の区域よりも著しく、また、医師の高齢化も課題となっているため、医療介護の人材確保に取り組むとともに、不足している病床機能への転換及び在宅医療等の充実に取り組む。

市町村数	3町1村
人口※	24,263人
高齢化率※	43.4%

※令和2年国勢調査結果

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標

回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟など回復期を担う病床への転換に必要な施設・設備の整備を支援し、病床の機能分化・連携に取り組む。

【参考】地域医療構想で記載する令和7年度の医療機能ごとの病床の必要量

(会津区域含む※会津・南会津区域は一体の構想区域のため)

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
256床	849床	846床	508床

(資料：福島県地域医療構想)

地域医療構想の実現を図る観点から、地域医療構想調整会議等の合意を踏まえて行う病床の最適化に取り組む際の財政支援を実施する。

② 居宅等における医療の提供に関する目標

在宅医療を推進するために、在宅医療を担う医療従事者の確保、養成や普及啓発に取り組む。また、介護を必要とする患者が病院から在宅生活に円滑に移行できるように、医療(病院)と介護(ケアマネジャー)の連携による退院調整ルールの実用を支援し、在宅医療・介護連携の推進に取り組む。

③ 介護施設等の整備に関する目標

地域包括ケアシステムの構築に向けて、第八次福島県介護保険事業支援計画等に基づき、介護施設の整備や介護施設の居住環境向上の取組を支援する。

④ 医療従事者の確保に関する目標

第七次医療計画等に基づき、医療介護総合確保基金等を活用した確保策を進めていく。

指標名	現状値	目標値
病院勤務の常勤医師数（人口10万人対）	28.8人(R2年度)	53.9人(R5年度)

(資料：第七次福島県医療計画、福島県保健福祉部調べ)

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

南会津区域は県内で一番高齢化がすすんでおり、ハローワークに募集しても地元から応募が少ないなど、依然として人材不足が続いている状況にあることから介護従事者の確保に取り組む。(有効求人倍率(R4年3月):3.00(南会津所))

⑥ 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業

地域医療において過酷な勤務環境となっている医療機関を対象に、勤務医の労働時間短縮のための体制整備に係る支援を行うことで、勤務医の働き方改革の推進を図る。

2. 計画期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

■相双区域

1. 目標

相双区域では、東日本大震災及び原子力災害の影響により、医療介護従事者は著しく不足しており、医療介護人材の確保が最優先課題となっている。

市町村数	2市7町3村
人口※	119,577人
高齢化率※	34.8%

※令和2年国勢調査結果

また、相双区域(特に双葉エリア)の医療施設の2割が、福祉施設の約1割が休止中であり、利用者や区域内外のサービス提供関係機関の負担が継続しているため、以下の課題に取り組む。

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標
医療福祉施設の再開支援を最優先に取り組む。

【参考】地域医療構想で記載する令和7年度の医療機能ごとの病床の必要量

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
45床	233床	243床	204床

【参考】避難地域の復興により流出が収束した場合

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
88床	408床	403床	250床

(資料：福島県地域医療構想)

地域医療構想の実現を図る観点から、地域医療構想調整会議等の合意を踏まえて行う病床の最適化に取り組む際の財政支援を実施する。

② 居宅等における医療の提供に関する目標

在宅医療に従事する医師等、医療従事者及び介護施設の従事者の確保に努める。

③ 介護施設等の整備に関する目標

地域包括ケアシステムの構築に向けて、第八次福島県介護保険事業支援計画等に基づき、介護施設の整備や介護施設の居住環境向上の取組を支援する。

④ 医療従事者の確保に関する目標

人口 10 万人あたりの医療施設従事医師数（平成 30 年）は、151.8 人（県平均 204.9 人）、人口 10 万人あたりの医療施設従事看護師数は、688.9 人（県平均 780.7 人）と非常に深刻な事態となっており、医療従事者の確保に取り組む。

指標名	現状値	目標値
病院勤務の常勤医師数（人口 10 万対）	85.3 人(R2 年度)	109.3 人(R5 年度)

（資料：第七次福島県医療計画、福島県保健福祉部調べ）

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

相双区域では区域で介護従事者を確保することが困難な状況が続いており、被災地介護施設再開等支援事業により県内外からの応援職員を受け入れて施設の運営をしている施設もある。

介護関連職種の有効求人倍率は、改善傾向にあるものの依然として介護人材不足が続いている状況であることから、介護従事者の確保に取り組む。（有効求人倍率（R4 年 3 月）：2.52（相双所））

⑥ 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業

地域医療において過酷な勤務環境となっている医療機関を対象に、勤務医の労働時間短縮のための体制整備に係る支援を行うことで、勤務医の働き方改革の推進を図る。

2. 計画期間

令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

■いわき区域

1. 目標

いわき区域では、医療介護人材の確保を進めながら、地域包括ケアシステムの観点から効率の良い質の高い医療提供体制を構築するため、病床転換に必要な施設設備の整備及び在宅医療等の充実に取り組む。

市町村数	1 市
人口※	332,931 人
高齢化率※	31.5%

※令和 2 年国勢調査結果

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備目標、

地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業の目標

回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟など回復期を担う病床への転換に必要な施設・設備の整備を支援し、病床の機能分化・連携の推進に取り組む。

【参考】地域医療構想で記載する令和 7 年度の医療機能ごとの病床の必要量

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
264 床	809 床	750 床	873 床

（資料：福島県地域医療構想）

地域医療構想の実現を図る観点から、地域医療構想調整会議等の合意を踏まえて行う病床の最適化に取り組む際の財政支援を実施する。

② 居宅等における医療の提供に関する目標

在宅医療を推進するために、多職種協働による24時間365日対応の在宅医療提供の拠点構築の推進に取り組む。また、介護を必要とする患者が病院から在宅生活に円滑に移行できるように、医療（病院）と介護（ケアマネジャー）の連携による退院調整ルールの運用を支援し、在宅医療・介護連携を推進する。

③ 介護施設等の整備に関する目標

地域包括ケアシステムの構築に向けて、第八次福島県介護保険事業支援計画等において予定している介護施設の整備や介護施設の居住環境向上の取組を支援する。

④ 医療従事者の確保に関する目標

第七次医療計画等に基づき、医療介護総合確保基金等を活用した確保策を進めていく。

指標名	現状値	目標値
病院勤務の常勤医師数（人口10万対）	89.3人(R2年度)	100.0人(R5年度)

（資料：第七次福島県医療計画、福島県保健福祉部調べ）

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

介護関連職種の有効求人倍率が県内で最も高く、介護人材不足が顕著であるため、介護従事者の確保に取り組む。（有効求人倍率（R4年3月）：4.05（いわき所））

⑥ 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業

地域医療において過酷な勤務環境となっている医療機関を対象に、勤務医の労働時間短縮のための体制整備に係る支援を行うことで、勤務医の働き方改革の推進を図る。

2. 計画期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

（注）目標の設定に当たっては、医療計画、介護保険事業支援計画等を踏まえ、アウトプット・アウトカムに着目したできる限り定量的な視点による目標設定を行うこと。

(4) 目標の達成状況

別紙1「事後評価」のとおり。

2. 事業の評価方法

(1) 関係者からの意見聴取の方法

- ・ 令和4年8月26日 県地域医療対策協議会により関係団体から意見聴取。
- ・ 令和4年中 県高齢者福祉施策推進会議により関係団体から意見聴取予定。

(2) 事後評価の方法

計画の事後評価にあたっては、「福島県地域医療対策協議会」及び「福島県高齢者福祉施策推進会議」等の意見を聞きながら評価を行い、必要に応じて見直しなどを行うなどにより、計画を推進していく。

3. 計画に基づき実施する事業

- 事業区分 1 - 1 : 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設
又は設備の整備に関する事業
- 事業区分 1 - 2 : 地域医療構想の達成に向けた病床の機能
又は病床数の変更に関する事業
- 事業区分 2 : 居宅等における医療の提供に関する事業
- 事業区分 4 : 医療従事者の確保に関する事業
- 事業区分 6 : 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に
関する事業

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	I-1 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業			標準事業例	1
事業名	No	1	新規事業/継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 72,160千円
	地域医療情報ネットワーク推進助成事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域				
事業の実施主体	病院、福島県、福島県医療福祉情報ネットワーク協議会				
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	地域医療構想の達成に向けた病床の機能分化等を推進し、「医療機関完結型の医療」から「地域完結型の医療」へと移行するなかで、機能の異なる診療所や病院などが相互に繋がるネットワーク、医療と介護が繋がるネットワークが重要となっている。				
	アウトカム指標	<p>①キビタン健康ネットへの年間アクセス数 R2:614,775件 → R4:695,000件 → (R12:1,015,000件)</p> <p>②キビタン健康ネットによる情報共有に同意した患者の同意件数累計 R2:46,527件 → R4:71,000件 → (R12:159,000件)</p> <p>※①②ともに福島県総合計画(2022年→2030年)に掲げる設定指標</p>			
事業の内容	<p>医療機関・介護施設等で切れ目のない連携を可能とし、地域医療構想の達成に向けた病床の機能分化等を推進するため、福島県における全県的な地域医療連携ネットワークシステムである「キビタン健康ネット」において、地域の中核病院等が新たに情報提供施設となる場合に、診療情報を他施設へ常時情報公開するために必要となる機器の整備に対して支援を行う。</p> <p>※ 情報提供施設・・・ 地域の中核病院などであり、自院に搬送される多くの患者について、症状が安定したり、大きな検査を終えた後に、地域のクリニックなどに円滑に転院等がなされるよう自院の保有する診療情報を、常時、他施設に公開している施設。</p>				
アウトプット指標	地域医療情報ネットワーク推進助成事業による支援件数4施設				
アウトカムとアウトプットの関連	地域の中核病院等が、情報提供施設となることで、周辺の連携施設や地域住民のネットワーク参加が期待されるとともに、ネットワーク全体の情報連携体制の強化に繋がる。				
地域医療構想の関係性及びスケジュール(注1)					

事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 72,160	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注2)	公	(千円)
		基金	国(A)	(千円) 24,053		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円) 12,027			うち受託事業等 (再掲)(注3) (千円)
			計(A+B)	(千円) 36,080			
		その他(C)	(千円) 36,080				
備考(注4)							

(注1) 区分I-1の標準業例5「病床の機能分化・連携推進のための基盤整備」かつ医療機関支援に係るソフト事業の場合のみ記載すること。

(注2) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注3) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注4) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	9	
事業名	No	2	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,894千円		
	在宅医療推進協議会の設置・運営						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる在宅医療ニーズに対して、適切な医療・介護サービスが供給できるよう在宅医療にかかる提供体制の強化が必要。						
	アウトカム指標	訪問診療を受けた患者数(レセプト件数)の増加 R1: 94,856→R4: 94,856以上					
事業の内容	県内の在宅医療の推進を図るため、在宅医療関係者等で構成する協議会を設置・運営する。						
アウトプット指標	・協議会開催回数 県全体1回、方部別6回(6方部×1回)						
アウトカムとアウトプットの関連	各地域において、関係団体等との連携により、在宅医療に係る課題の協議、検討及び情報共有等を通じて在宅医療提供体制を強化することで、看取り数(レセプト件数)の増加を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	(千円)	
				5,894			3,925
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			
		計(A+B)		(千円)			
		1,963					
		5,888				うち受託事業等(再掲)(注2)	
		その他(C)	(千円)	6		(千円)	
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	10	
事業名	No	3	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 10,000千円		
	在宅医療推進事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	病院、医科・歯科診療所、訪問看護事業所、医療関係団体						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる在宅医療ニーズに対して、適切な医療・介護サービスが供給できるよう在宅医療にかかる提供体制の強化が必要。						
	アウトカム指標	訪問診療を受けた患者数 R1: 94,856→R4: 94,856以上					
事業の内容	医療機関及び医療関係団体等が①地域包括ケア・在宅医療に関わる従事者の連携・資質向上に資する研修会、②在宅医療やかかりつけ医等の普及・啓発に資する取組、③医療従事者向け在宅医療導入研修、④訪問診療医のグループや急変時受入医療機関による連携に向けた情報交換会を実施する場合の経費を支援する。						
アウトプット指標	・研修会への参加者数 2,700人以上						
アウトカムとアウトプットの関連	医療関係者自らが地域包括ケアシステム・在宅医療を推進する上での課題を把握・共有し、解決に向けた取り組みを行うことで、機能的な地域包括ケアシステム・在宅医療提供体制の構築を図り、看取り数(レセプト件数)の増加を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		(A+B+C)		10,000			
	基金	国(A)		(千円)		市民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			
		計(A+B)		(千円)			
			10,000			うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)
その他(C)		(千円)	0		(千円)		
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	16
事業名	No	4	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】	7,368千円
	在宅歯科医療連携室整備事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域					
事業の実施主体	福島県(福島県歯科医師会)					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	<p>今後さらなる増加が見込まれる在宅医療の提供が必要な者に対して、適切な歯科医療及び歯科医学管理(専門的口腔ケア含む)が供給できるよう、在宅歯科医療に係る提供体制の強化及び他職種連携の推進が必要となる。</p> <p>このため、県歯科医師会に在宅歯科医療連携室を設置し、在宅歯科希望者への相談窓口の運営や他分野との連携体制することが有効となる。</p>					
	アウトカム指標	<p>アウトカム指標: 訪問歯科診療所等の紹介数</p> <p>H29: 92件 → R4: 130件</p>				
事業の内容	<p>在宅歯科医療における医科や介護などの他職種との連携体制をより効率的に推進するため、県歯科医師会に在宅歯科医療連携室を設置し、在宅歯科医療希望者への相談窓口の運営や他分野との連携体制を構築する。</p> <p>また、地域住民へ効果的に事業の周知ができるように広報活動を行う。</p>					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 在宅歯科医療連携室の設置・運営 1ヶ所 在宅歯科医療連携室運営会議 2回 					
アウトカムとアウトプットの関連	在宅歯科医療連携室を設置し、在宅歯科医療提供体制の強化を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
				7,368		0
	基金	国 (A)		(千円)		(千円)
				4,912		
		都道府県 (B)		(千円)	民	(千円)
				2,456		4,912
		計 (A+B)		(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
				7,368		

		その他 (C)	(千円) 0			(千円) 4,912
備考 (注3)						

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	12			
事業名	No	5	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,000千円				
	訪問看護推進事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	福島県訪問看護連絡協議会								
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる在宅医療ニーズに対して、適切な医療・介護サービスが供給できるよう在宅医療にかかる提供体制の強化が必要。								
	アウトカム指標	訪問診療を受けた患者数(レセプト件数)の増加 R1: 94,856 → R4: 94,856以上							
事業の内容	患者が自宅で安定した療養生活を送る上で不可欠な訪問看護の提供体制構築を推進するため、県内の訪問看護事業所を支援する役割を担う訪問看護連絡協議会が実施する取組(訪問看護に係る相談窓口設置、訪問看護に関する課題等を検討する会議開催)に対して支援する。								
アウトプット指標	・検討会開催回数 年12回								
アウトカムとアウトプットの関連	訪問看護関係団体等との連携により、訪問看護に係る課題の協議、検討及び情報共有等を通じて訪問看護提供体制を強化することで、看取り件数(レセプト件数)の増加を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
		(A+B+C)		4,000			民	2,666	
	基金	国(A)		(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)			(千円)
		都道府県(B)		(千円)					
		計(A+B)		(千円)					
その他(C)		(千円)	0						
備考(注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	8		
事業名	No	6	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 8,000千円			
	地域連携体制支援事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	病院							
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる在宅医療ニーズに対して、適切な医療・介護サービスが供給できるよう在宅医療にかかる提供体制の強化が必要。							
	アウトカム指標	アウトカム指標：看取り数（レセプト件数）の増加 H27：2,598件→R4：2,900件						
事業の内容	病院が新たに退院調整部門を設置し、専従職員（看護師、社会福祉士又は精神保健福祉士）の配置に係る人件費に対して支援する。							
アウトプット指標	・新たに退院調整部門を設置する病院数 5							
アウトカムとアウトプットの関連	医療機関の退院支援担当者の配置を支援し、地域における円滑な在宅移行を図ることで、看取り数（レセプト件数）の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
				8,000				
	基金	国 (A)		(千円)			民	(千円)
				5,333				
		都道府県 (B)		(千円)				
計 (A+B)		(千円)	8,000			うち受託事業等 (再掲) (注2)		
その他 (C)		(千円)				(千円)		
備考 (注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	22	
事業名	No	7	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】	6,650千円	
	多職種連携による薬局・薬剤師の在宅医療サービス推進事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	一般社団法人福島県薬剤師会						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	<p>今後、増加が見込まれる在宅患者に対して、薬剤師は残薬削減、重複投与防止、相互作用防止や副作用の早期発見など薬学的知見で貢献することができる。</p> <p>しかし、在宅医療における薬剤師の業務が、他職種や患者家族等に十分に理解されていない状況にあるため、多職種や患者家族等に薬剤師の有用性を理解してもらう必要がある。</p>						
	アウトカム指標	居宅療養管理指導料算定薬局数 R3:337件→R4:350件					
事業の内容	<p>他職種が行う在宅訪問に薬剤師が同行し、薬局薬剤師と在宅医療に関わる多職種との連携を強化して、在宅医療における薬剤師の有用性を実感してもらうとともに、医療職種や地域住民に対して薬剤師による在宅訪問業務のPRを実施し、薬剤師業務の普及を図る。</p> <p>また、在宅訪問に関わる薬剤師の研修を実施するとともに、在宅経験の浅い薬剤師に経験豊富な薬剤師が同行し指導を行うことにより、在宅医療に対応できる薬剤師の育成につなげる。</p>						
アウトプット指標	・薬剤師の無料訪問同行依頼件数 150件						
アウトカムとアウトプットの関連	他職種や地域住民に薬剤師の訪問の有用性を理解してもらうことにより、在宅患者訪問薬剤管理指導料・居宅療養管理指導料の算定薬局件数の増加が見込まれるとともに、多職種連携の拡充や適正な薬物療法の提供が図られ、在宅医療の機能強化が推進される。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		6,650			
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		2,217			
		計(A+B)		(千円)			うち受託事業等

			6.650			(再掲) (注2)
		その他 (C)	(千円)			(千円)
						4.433
備考 (注3)						

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	-
事業名	No	8	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,000千円	
	医療と介護の連携強化事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域					
事業の実施主体	病院、診療所、訪問看護ステーション、居宅介護施設					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	地域医療構想の達成に向けた在宅医療を推進するためには、医療機関・介護施設間のネットワーク構築による相互連携が不可欠である。					
	アウトカム指標	訪問看護件数 R1:479,511件 → R4:558,380件				
事業の内容	地域医療構想の達成に向けた在宅医療を推進するため、地域包括ケアシステムの構築に必要な、在宅患者の情報を共有するための経費を支援する。					
アウトプット指標	・支援施設数 10施設					
アウトカムとアウトプットの関連	医療・介護施設間において、ICTを活用した在宅患者の情報共有を図ることで、質が高く切れ目のない医療サービスの提供体制の構築、及び医療従事者の負担軽減が図られ、訪問看護の件数の増加に繋がる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円)
		国 (A)		(千円)		
		都道府県 (B)		(千円)		
		計 (A+B)		(千円)		
		その他 (C)		(千円)		
					うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
備考 (注3)						

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	7
事業名	No	9	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 18,558千円	
	福島県在宅医療・介護連携支援センター整備事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域					
事業の実施主体	福島県(福島県医師会)					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	市町村には医療を担う部門が無いことにより、医療と介護の連携が進んでいない自治体が多い中で、高齢化の進展や、病床機能の分化に伴う慢性期患者の在宅移行により、在宅医療の需要が増加すると推計されていることから、関係者の連携及び人材の育成を支援し、適切な医療と介護サービスが提供できるよう体制整備を強化する必要がある。					
	アウトカム指標	訪問診療を受けた患者数(レセプト件数)の増加 R1: 94,856 → R4: 94,856以上				
事業の内容	医療と介護の連携を推進する全県的な窓口を県医師会に委託して設置し、①関係機関の相談対応及び連携支援、②多職種連携研修等の実施による人材育成及び県民への普及啓発、③在宅医療・介護連携を担う郡市医師会に対する支援、④地域包括ケアシステム推進協議会を開催により、県民が住み慣れた自宅や地域で安心して暮らすことができる体制構築を進める。					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体を対象とした情報交換会の開催 2回 地域包括ケアシステム推進協議会の開催 2回 					
アウトカムとアウトプットの関連	本事業によって在宅医療と介護の連携拠点を整備し、関係団体や市町村の相談支援等を行うとともに、研修会の開催による人材育成に取り組むことにより訪問診療の件数の増加を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)	(千円)	基金充当額(国費)における公民の別(注1)	公	(千円)
			18,558			
	基金	国(A)	(千円)		民	(千円)
			12,372			
	都道府県(B)	(千円)			(千円)	
		6,186			12,372	
		計(A+B)	(千円)			うち受託事業等(再掲)(注2)
			18,558			

		その他 (C)	(千円) 0			(千円)
備考 (注3)						

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業			標準事業例	22		
事業名	No	10	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,587千円		
	在宅医療エキスパート薬剤師人材育成強化事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県、薬剤師会						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	在宅医療を受ける患者が増加傾向であることに伴い、かかりつけ薬局・薬剤師の積極的な介入が期待されている。 このような状況において、多くの薬剤師から在宅患者へのケアに関する知識の習得やスキル向上を目的とした研修会の開催要望が寄せられている。						
	アウトカム指標	受講証交付薬剤師総数 R3:293名 → R4:323名					
事業の内容	在宅医療を受ける患者の増加傾向に伴い、今後、在宅での需要の増加が見込まれる無菌調剤等に対応できる薬剤師を育成するため、薬局薬剤師間での症例検討や情報共有、知識・技能の向上を目的としたスキルアップ研修会や症例検討会等の開催を支援する。 また、薬局薬剤師が、在宅医療で使用されるシリンジポンプや輸液ポンプ等の医療機器に関する知識を深め、安全に取り扱える等するために実機演習を含めたセミナーを開催する。						
アウトプット指標	研修受講者数 延べ30名						
アウトカムとアウトプットの関連	在宅医療を実践できるエキスパート薬剤師を養成することにより、医師や訪問看護師、ケアマネージャーなどの医療・介護専門職と密に連携し、在宅における薬物治療支援が可能となる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)	(千円)	
				3,587	における 公民の別 (注1)	1,058	
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			1,333
			計 (A+B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		3,587		(千円)			
		その他 (C)	(千円)				
備考 (注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	10	
事業名	No	11	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 20,000千円		
	訪問診療同行研修事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	医療関係団体等						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる在宅医療ニーズに対して、適切な医療・介護サービスが供給できるよう在宅医療を担う人材の確保・育成を行い、在宅医療提供体制を強化する必要がある。						
	アウトカム指標	訪問診療を受けた患者数(レセプト件数)の増加 R1: 94,856 → R4: 94,856以上					
事業の内容	新たに在宅医療を開始する医師等を対象に、在宅医療のやりがい、在宅患者や家族のケアの方法、多職種連携の方法、在宅医療に関する診療報酬等を学ぶ座学研修や同行訪問研修を実施する。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 研修会開催回数 座学研修4回、同行訪問研修9回(モデル地区3方部を想定するもの) 受講者数 150人 						
アウトカムとアウトプットの関連	県内の多くの関係者に受講してもらうためにオンライン研修等も活用しながら、複数回の座学研修、同行訪問研修を実施し、在宅医療の担い手を確保・育成し、訪問診療の件数増加を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民 うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円)	
		(A+B+C)		20,000			
		基金	国(A)				(千円)
			都道府県(B)				(千円)
			計(A+B)				(千円)
		その他(C)		(千円)			0
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	12	
事業名	No	1 2	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,737千円		
	訪問看護促進のための支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	一般社団法人白河医師会等						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	在宅医療のニーズの今後増大することが見込まれているが、看護師が不足している訪問看護ステーションが多いことから、適切なサービスを供給できるよう訪問看護を行う事業所に対する支援が必要。						
	アウトカム指標	県南地方の在宅看取り数の増加 H30 : 139件 → R4 : R3以上					
事業の内容	訪問看護ステーションに医療事務職員を派遣し、レセプトや看護記録の作成支援を行うことにより、看護師の負担軽減を図る。 また、医師の立場から適切なケアの方法を指導することにより、訪問看護師の育成を行う。						
アウトプット指標	・訪問看護ステーションの支援回数 720回 ・医師による訪問看護ステーションへのスーパービジョン回数 6回						
アウトカムとアウトプットの関連	訪問看護師の事務負担軽減が図られるとともに、訪問看護におけるケアの質向上によって在宅死亡率が増加する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			3,824
			計 (A+B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		0	(千円)
備考 (注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	—		
事業名	No	13	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,907千円			
	がんピアネットワーク構築支援事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	がん患者支援団体							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	<p>尊厳を持って安心して暮らせる社会を構築するため、がん患者やその家族が可能な限り質の高い療養生活を送れるよう、全人的な緩和ケアが治療時期や療養場所を問わず患者の状態に応じて、切れ目なく適切に実施される必要がある。</p> <p>また、がん患者が住み慣れた家庭や地域で療養又は生活を選択できるよう、在宅緩和ケアを含めた在宅医療・介護の提供が求められている。</p>							
	アウトカム指標	<p>患者体験調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談できる環境があると感じた患者の割合の増加 R3:(調査中)→R4:R3以上 社会からの孤立を感じる患者の割合の減少 R3:(調査中)→R4:R3以下 						
事業の内容	がん体験者をファシリテーターとし、県内全域でサロンを開設する。また、ファシリテーターには現場での実践と各種会議・学会への参加により、がんに対する正しい知識を習得させるほか、新たになんピアサポーターを養成していく。							
アウトプット指標	<p>サロン(患者やその家族などが集まり、交流・情報交換する場)の開催数及び参加者数</p> <p>R3年度:開催数89回、参加者数454名→R4年度:R3以上</p>							
アウトカムとアウトプットの関連	がんピアサポーターの養成・育成によりサロンの運営が確保され、サロンへの参加者が増加し、在宅緩和ケアの充実に寄与する。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		4,907		0		
		基金	国(A)	(千円)		3,271	民	(千円)
			都道府県(B)	(千円)				1,636
計(A+B)		(千円)	4,907		うち受託事業等 (再掲)(注2)			

		その他 (C)	(千円) 0			(千円) 3,271
備考 (注3)						

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	18		
事業名	No	14	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 250千円			
	認知症等入院患者への歯科医療研修会支援事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県歯科医師会							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	認知症等の症状が重症化すると意思疎通が困難になり、歯科治療に対する患者の協力が得られなくなるため、認知症等患者に対する早期歯科治療開始の必要性を歯科以外の職種に普及させる必要がある。 このため、医療従事者を対象とした研修会等の取組みを支援することが有効である。							
	アウトカム指標	看取り数(レセプト件数)の増加 H27:2,598件→R4:2,900件						
事業の内容	認知症と診断された患者に対して早期に歯科が介入して認知症等の患者の重症化を防ぐため、医療と介護の連携体制を構築するための病院の医療従事者を対象とした研修会等を支援する。							
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 研修会の実施回数 1か所 研修会の参加人数 100人 							
アウトカムとアウトプットの関連	医療従事者に対して認知症等患者への早期の歯科治療の重要性を認識してもらい研修会を支援することで、認知症等患者に対する歯科医療体制の強化が図られる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	公	(千円)	
				250			0	
	基金	国 (A)		(千円)			民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)				166
		計 (A+B)		(千円)				84
計 (A+B)		(千円)	250	うち受託事業等 (再掲) (注2)		(千円)		
その他 (C)		(千円)	0			(千円)		
備考 (注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	19	
事業名	No	15	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 165,000千円		
	在宅医療基盤整備事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	病院、医科診療所、歯科診療所、訪問看護事業所						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる在宅医療ニーズに対して、適切な医療・介護サービスが供給できるよう在宅医療にかかる提供体制の強化が必要。						
	アウトカム指標	訪問診療を受けた患者数(レセプト件数)の増加 R1: 94,856→R4: 94,856以上					
事業の内容	病院、医科診療所、歯科診療所又は訪問看護事業所が訪問診療、訪問歯科診療、訪問看護に必要な医療機器や訪問診療車の整備に必要な費用を支援する。						
アウトプット指標	・実施件数 在宅医療機器 50件 訪問診療車 10件						
アウトカムとアウトプットの関連	在宅医療に必要な設備を整備し、効率的・効果的に在宅医療を行えるようにすることで、在宅医療提供体制の強化が図られる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		公民の別 (注1)	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			(千円)
			計 (A+B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)			(千円)
		165,000					
			73,333				
			36,667				
			110,000				
			55,000				
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	—		
事業名	No	16	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 11,500千円			
	無菌調剤室整備支援事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	県内薬剤師会及び県内薬剤師会に所属する薬局							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる在宅患者等に対して、適切な医療・介護サービスが提供できるように在宅医療にかかる提供体制を強化する必要がある。							
	アウトカム指標	無菌調剤に対応できる薬局数(共同利用を含む) H28:23施設 → R4:38施設						
事業の内容	がん患者等の在宅医療にかかる医薬品の供給及び応需体制を強化するため、地域の薬局において共同利用するための無菌調剤室等の整備及び地域の薬局薬剤師に対する無菌調剤等に関する研修会の実施を支援する。							
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 無菌調剤室の整備等 1か所 無菌調剤室共同利用に向けた研修会参加者数(実技含む) 30人 							
アウトカムとアウトプットの関連	調剤薬局に無菌調剤室等を整備し、無菌調剤にかかるスキルを習得することで、在宅医療の提供体制を充実させることができ、がん患者のQOL向上が図られる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		11,500				
		基金	国(A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)		7,666
			計(A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)	11,500	(千円)				
備考(注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	居宅等における医療の提供に関する事業			標準事業例	12
事業名	No	17	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 40,916千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域				
事業の実施主体	福島県(福島県看護協会、地域がん診療連携拠点病院)、福島県訪問看護連絡協議会、福島県医療福祉関連教育施設協議会、県内医療機関等				
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	がん患者や医療依存度の高い在宅療養者が増加している現状から、がん看護・訪問看護の充実を図るため、看護職員に対する専門的な研修を実施し、「効率的かつ質の高い医療提供体制の構築」を図る。				
アウトカム指標	看護職員の資質向上を図ることで、安全で質の高い看護サービスを提供できる看護職員が確保される。 ・県内の訪問看護ステーションに従事する看護職員の増 H30:589人→H31:652人→R2:669人→R3:675人→R4:680人 (県需給計画より)				
事業の内容	がん看護・訪問看護における実践能力の高い看護師を育成し、質の高い在宅医療の推進を図るための研修会を開催する。				
アウトプット指標	① 訪問看護に関する研修会:4回 ③ がん看護に関する研修会:4回 ④ 特定行為研修参加に係る経費補助:50名 人件費補助:3事業所 制度の普及に向けた講習会:2回 指定研修機関等連絡会議:2回+(実務者検討会2回) 指定研修機関運営費用の補助:2施設 指導者養成研修会開催経費の補助:1施設 ⑤ 多職種連携推進に関する研修会:1回				
アウトカムとアウトプットの関連	看護職員が専門的な知識や技術を修得し、資質向上を図ることで離職防止・定着を推進し、看護職員数の増加を図る。				

事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		40,916			4,122
		基金	国(A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県(B)	(千円)			23,154
			計(A+B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲)(注2)
40,915	(千円)	3,878					
その他(C)	(千円)	1					
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	4, 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	-	
事業名	No	18	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 20,000千円		
	医業承継支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県(県医師会)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	当県は東日本大震災及び今なお緊急事態宣言が発出されている原子力災害の影響で、医療施設数が大きく減少し、全域において診療所が不足している。診療所を新規開業することはハードルが高く、診療所の開設者または法人の代表者の平均年齢が67.3歳(平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査)となるなど開業医の高齢化が進行していることに加え、後継者不在等の理由による医院廃業によっても県内の診療所数が減少(H22:1,457施設→R1:1,346施設)しているため、医師の減少防止を図る必要がある。						
	アウトカム指標	医業承継マッチングの達成 R2:1件→R4:5件					
事業の内容	県医師会内に医業承継バンクを設置し、県内診療所や市町村への調査、県内外への制度周知、各種相談対応等を行い、廃業を検討する医師と新規開業を検討する医師とのマッチングを支援し、医業承継による診療所開業のハードルを下げることに寄与することで、県内の医師不足防止を図る。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチング相談(個別面談)数 R2:20件→R4:30件以上 ・医業承継バンク登録者数 R2:42名→R4:47名以上 ・サイトへのアクセス件数 R2:28,666件→R4:30,000件以上 						
アウトカムとアウトプットの関連	医業承継バンクの設置とその周知、医業承継に係るセミナー等を実施することで、医業マッチング実現に向けた支援体制を構築する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		20,000			
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
都道府県		(千円)					

		(B)	6,667			13,333
		計 (A+B)	(千円) 20,000			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)	(千円)			(千円) 13,333
備考 (注3)						

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	33	
事業名	No	19	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,000千円		
	歯科衛生士、歯科技工士の復職・再就業支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県歯科医師会						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	<p>現在の歯科医療の提供においては、全身疾患との関連及び高齢者や要介護者の口腔管理の重要度からみても、歯周病管理を含む口腔管理の重要性が増し、その一端を担う歯科衛生士の必要性はますます増加している。</p> <p>加えて、在宅寝たきりの患者等に対しての口腔ケアの実施など、その業務範囲はますます拡大しており需要が高まってきている。</p> <p>しかし、歯科衛生士及び歯科技工士は離職率が高く、歯科医療の現場では当該職種の慢性的な人手不足となっており、復職支援体制強化のための取組を支援することが有効である。</p>						
	アウトカム指標	<p>就業歯科衛生士、歯科技工士数(人口10万人対)の増加</p> <p>(歯科衛生士) R2 85.6人 → R6 90.6人以上</p> <p>(歯科技工士) R2 39.9人 → R6 44.9人以上</p>					
事業の内容	<p>歯科衛生士等の復職支援体制強化のため、潜在歯科衛生士等の発掘、再就業に効果的につなげるための離職者情報の把握及び再就業支援のための研修会に関する取組を支援する。</p>						
アウトプット指標	<p>・歯科衛生士等の復職支援研修業務等 1ヶ所</p>						
アウトカムとアウトプットの関連	<p>出産・育児等で一定期間の離職により再就職に不安を抱える歯科衛生士等の復職を支援することで、歯科衛生士等の確保を図る。</p>						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		5,000		0	
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			3,333
		計(A+B)		(千円)			5,000
その他(C)		(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)		

備考（注3）	
--------	--

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例		
事業名	No	20	新規事業/継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,235千円		
	歯科衛生士、歯科技工士の人材確保事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県歯科医師会						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	<p>歯科疾患の管理や口腔衛生管理の重要性が増し、その一端を担う歯科衛生士の必要性はますます増加しており、歯科診療所のみならず、居宅、介護保険施設、病院等の様々な場所で従事することが想定されている。歯科衛生士の確保が必要不可欠であるが、未就業者や早期離職者が数多く存在していることから、人材確保を目的として、復職促進及び離職防止の対策が急務である。</p> <p>しかし、歯科衛生士及び歯科技工士は未就業者や早期退職者が多いことから、人材確保に向けた積極的な魅力発信と就業者の離職防止の取組を支援する必要がある。</p>						
	アウトカム指標	<p>就業歯科衛生士、歯科技工士数(人口10万人対)の増加 (歯科衛生士) R2 85.6人 → R6 90.6人以上 (歯科技工士) R2 39.9人 → R6 44.9人以上</p>					
事業の内容	<p>歯科衛生士、歯科技工士の新規就業者の獲得を図るため、高校生等の未就業者を対象とした歯科医療職説明会の実施や宣伝広告による周知を行う。また離職防止に向けた相談窓口の設置や関係団体との検討会及び実地研修会を実施する。</p>						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 高校生等の未就業者を対象とした歯科医療職説明会 1回 離職者を対象とした実地研修 5回 離職等に関する相談窓口設置 1箇所 						
アウトカムとアウトプットの関連	<p>高校生等の未就業者に対し歯科医療職の周知を行うことで、歯科衛生士、歯科技工士の確保を図る。また、離職防止のため有資格者バンク登録の情報を活用し、登録者に有益な機会を提供する。</p>						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	(千円)
		(A+B+C)		4,235			
	基金	国(A)		(千円)	(注1)	民	(千円)
都道府県		2,823					

		(B)	1,412			2,823
		計(A+B)	(千円) 4,235			うち受託事業等 (再掲)(注2)
		その他(C)	(千円)			(千円)
備考(注3)						

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	53	
事業名	No	21	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 15,311千円		
	小児救急電話相談事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県(民間企業)						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	本県の小児科医師数は全国でも極めて低い水準にあり、小児科医の負担軽減を図りつつ小児医療体制の確保をすることが求められている。						
アウトカム指標	<p>小児科医の負担軽減を図るため、翌日の医療機関を勧めた件数や一般的な保健指導・育児指導を行った件数の増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翌日の医療機関を勧めた件数 R3: 798件 → R4: 798以上 ・一般的な保健指導・育児指導を行った件数 R3: 6,214件 → R4: 6,214以上 						
事業の内容	夜間に急変した小児を持つ保護者に対して、必要な相談及び医療機関等の情報提供が可能な民間企業と委託契約し、#8000を利用した電話相談事業を行う。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・小児救急電話相談の実施件数の増 R3: 9,607件 → R4: 9,607以上 						
アウトカムとアウトプットの関連	年間を通して小児救急電話相談を実施することにより、小児科医の負担軽減と小児の救急医療体制の確保を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			10,207
			計 (A+B)	(千円)			10,207
		その他 (C)	(千円)	0		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
					10,207		
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	22	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 30,000千円		
	夜間救急電話相談事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全地域						
事業の実施主体	福島県(委託)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	医師不足が解消されない中、限られた人材で医療提供を継続するために、特に夜間において医療提供体制を整備し、県民の健康不安を解消する必要がある。						
	アウトカム指標	<p>医師の負担軽減を図るため、翌日の医療機関を勧めた件数や一般的な保健指導・育児指導を行った件数の増</p> <ul style="list-style-type: none"> 翌日の医療機関を勧めた件数 R3:(調査中)件 → R4:5,000件以上 一般的な保健指導・育児指導を行った件数 R3:(調査中)件 → R4:5,000件以上 					
事業の内容	救急医療に係る医療従事者の負担軽減及び県民の健康不安解消のため、夜間に専門家から助言を受けられる電話相談事業の実施を民間業者に委託する。						
アウトプット指標	・夜間救急電話相談件数:10,000件						
アウトカムとアウトプットの関連	救急電話相談の実施により、夜間における県民の健康不安が解消されるとともに、不要・不急の受診が減少し医師の負担軽減が期待される。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)		(千円)	基金充当額(国費)における公民の別(注1)	公 民	(千円)
		国(A)		(千円)			20,000
		都道府県(B)		(千円)			
		計(A+B)		(千円)			
		その他(C)		(千円)			
		0		うち受託事業等(再掲)(注2)	(千円)	20,000	
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28			
事業名	No	23	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 118,398千円				
	産科医等確保支援事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	分娩取扱施設								
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	本県の産婦人科医師数は全国でも極めて低い水準にあることから、分娩手当支給を支援することにより、産婦人科医の定着を図ることが必要。								
	アウトカム指標	・ 手当支給施設の産科・産婦人科医師数 R3 : (調査予定) 人 → R4 : R3 以上							
事業の内容	過酷な勤務環境にある産科医等の処遇を改善しその確保を図るため、分娩手当を支給する分娩取扱医療機関に対して支援する。								
アウトプット指標	・ 手当支給者数 R3 : 144 人 → R4 : 144 人以上 ・ 手当支給施設数 R3 : 20 施設 → R4 : 20 施設以上								
アウトカムとアウトプットの関連	支給対象の増加により、産婦人科医の定着を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			(千円)
			その他 (C)			(千円)		(千円)	
備考 (注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28		
事業名	No	24	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,000千円			
	新生児科医師確保事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	病院							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	本県の小児科医師数は、全国でも極めて低い水準にあることから、新生児担当医師への手当支給を支援することにより、新生児科医の定着を図ることが必要。							
	アウトカム指標	・NICU担当常勤医数の増加 R3:(調査予定)→R4:(R3)以上						
事業の内容	新生児医療担当医の処遇を改善するため、出産後に新生児集中治療室(NICU)へ入院する新生児を担当する医師に対し手当を支給する医療機関に対して支援する。							
アウトプット指標	・新生児科医手当支給件数 R3:150件→R4:150件以上							
アウトカムとアウトプットの関連	手当支給者数の増加を図ることにより、NICU担当常勤医師数の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		3,000				
		基金	国(A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)		
			計(A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)	2,000					
備考(注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28			
事業名	No	25	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 600千円				
	産科医等育成支援事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	病院								
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	本県の産婦人科医師数は、全国でも極めて低い水準にあり、産科医を育成することが求められている								
	アウトカム指標	・ 手当支給施設の産科・産婦人科医師数 R3 : (調査中) 人 → R4 : (R3 以上) 人							
事業の内容	産科の後期研修医の処遇を改善するため、産科専攻医に手当を支給する医療機関に対して支援する。								
アウトプット指標	・ 手当支給者数 1人 ・ 手当支給施設数 1施設								
アウトカムとアウトプットの関連	産科専攻医への手当支給を支援することにより処遇の改善を図り、産科医の育成を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			(千円)
		その他 (C)		(千円)		(千円)			
備考 (注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	26	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,281千円		
	小児平日夜間救急医療支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県南地域						
事業の実施主体	西白河地方市町村会及び白河厚生総合病院						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の小児科医師数は全国でも極めて少ない状況にあり、特に県南区域における人口10万人対の小児科医師数(平成28年度)は6.3であり、全国13.2、県全体11.3に対して著しく低い水準にある。</p> <p>また、県南区域における同指標は平成22年度から平成28年度にかけて3.0ポイントも減少している。</p> <p>このことから、県南区域における小児科医の不足により診療の継続が困難となり、地域医療に大きな影響を与えることが危惧される。</p> <p>県南区域の小児患者は、隣接する県中区域等へ流出している現状もあることから、より身近な地域で診療を受けられる体制も整える必要がある。</p>						
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 白河地区の小児科医師数 R3:11名 → R4:R3の数値以上 					
事業の内容	平日夜間の小児外来の運営費(人件費)補助を行い、県南区域における小児医療を継続するための負担を軽減するとともに、当該補助を活用して小児科医の維持・確保につなげる。						
アウトプット指標	年間実施年数 244日						
アウトカムとアウトプットの関連	平日夜間の小児外来の運営費補助を行うことで、県南区域における小児医療の継続と小児科医の維持、確保を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				1,281		854	
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			427
		計(A+B)		(千円)			1,281
その他(C)		(千円)	0				
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	30	
事業名	No	27	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 300千円		
	小児科以外の医師等を対象とした小児救急研修事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	白河医師会						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	小児救急に対応した医師等の高齢化が進んでおり、小児救急に対応可能な医師等を育成し、小児救急医療体制を確保する必要がある。						
	アウトカム指標	・福島県における人口10万人対常勤小児科医師数 R3:12.0人→R4:15.0人(R2全国平均)					
事業の内容	救急や内科をはじめとする小児科以外の医師を対象とした小児救急に関する研修を実施する。						
アウトプット指標	・福島県における人口10万人対常勤小児科医師数 R3:12.0人→R4:15.0人(R2全国平均)						
アウトカムとアウトプットの関連	研修会等を実施することで、小児救急に対応可能な医師等を増やし、県内の小児科医の負担軽減を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				300		200	
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		計 (A+B)		(千円)			(千円)
その他 (C)		(千円)	0				
備考 (注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	28	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 6,000千円		
	がん診療連携拠点病院の薬局薬剤師研修支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	がん診療連携拠点病院						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる在宅のがん患者等に対して、適切な医療が提供できるように医療提供体制を強化する必要がある。						
	アウトカム指標	・二次医療圏毎のがん診療連携拠点病院による薬局薬剤師研修の実施 R3: 2医療圏3病院 → R4: 2医療圏3病院以上					
事業の内容	地域の薬局薬剤師のがん治療における質の向上のため、がん診療連携拠点病院等のがん薬物療法認定薬剤師やそれに準ずる認定薬剤師が、地域の薬局薬剤師に対して、化学療法や緩和ケア等に関する研修会を実施する取り組みを支援する。						
アウトプット指標	・研修受講者数 延べ45名						
アウトカムとアウトプットの関連	がん治療に必要なスキルを身につけた薬局薬剤師を育成することにより、在宅におけるがん薬物療法を支援できる薬剤師が確保される。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				6,000			
	基金	国 (A)		(千円)			民 (千円)
				4,000			
		都道府県 (B)		(千円)			
計 (A+B)		(千円)	6,000	うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)		
その他 (C)		(千円)					
備考 (注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—		
事業名	No	29	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 333千円			
	リハビリテーション機器活用人材育成事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県理学療法士会							
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	<p>少子高齢化が進み、高齢者に対するリハビリテーションの需要増大が見込まれるなか、理学療法士等のリハビリテーション医療の向上が求められている。研修会を通し、既存のリハビリテーションに従事する職員の質の向上に努めるとともに、リハビリテーション専門職の人材確保に努める必要がある。</p>							
	アウトカム指標	<p>・リハビリテーション専門職の人材確保(前年比10%増) R4.4月 (PT)1,691名 (OT)1,006名 (ST)269名 計:2,966名 ⇒ R5.4月 計:3,263人</p>						
事業の内容	理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士等に対するリハビリテーション機器の研修会の開催							
アウトプット指標	・研修会参加者数:40名							
アウトカムとアウトプットの関連	リハビリテーション機器に対する理解が深まることで、医療施設での機器活用への拡大が見込まれ、リハビリテーション医療の質の向上が図られるとともに、人材に確保が期待される。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	公 (千円)		
				333			民 (千円)	
		基金	国 (A)	(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			都道府県 (B)	(千円)				
			計 (A+B)	(千円)				
		333						
その他 (C)		(千円)	0					
備考 (注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	27	
事業名	No	30	新規事業/継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 534千円		
	地域医療対策協議会の設置・運営						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	本県の医師数は全国平均を下回っており、地域間においても医師の偏在がみられることから、実効的な医師確保対策及び医師偏在対策を推進するため、地域医療対策協議会での協議を踏まえ、医師少数区域等への医師派遣等の対策が必要である。						
	アウトカム指標	二次医療圏ごと人口10万人対医師数の地域差 県北地域(292.6人)と、その他地域(176.0人)の地域差1.66倍(R2年)→1.66倍以下(R4年)					
事業の内容	地域医療対策協議会において、下記の事項等を協議する。 ・医師派遣に関する事項 ・医師確保計画において定める事項						
アウトプット指標	地域医療対策協議会の開催：3回						
アウトカムとアウトプットの関連	地域医療対策協議会で医師確保対策の具体的な実施に係る協議・調整を行うことにより、実効性のある医師確保対策の取組みを通じた医師の確保及び偏在解消を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		534			356
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			
		計(A+B)		(千円)			
	534				うち受託事業等 (再掲)(注3)	(千円)	
	その他(C)		(千円)				
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36			
事業名	No	31	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 285千円				
	看護業務推進連絡会議								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	福島県								
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	原子力災害等の影響による離職や県外流失で減少した看護職の安定的な養成・確保の推進により、「効率的かつ質の高い医療提供体制の構築」を図る								
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 看護職員数(人口10万対)(衛生行政報告例、隔年実施) H28:1303.9人→H30:1363.1人→R2:1398.3人→R4:R2の人数以上 							
事業の内容	看護職員の安定的確保を図るため、専門研修や再就業支援研修の企画立案、雇用の質の確保などに関する検討を行う。								
アウトプット指標	<p>看護業務に造詣の深い委員により、総合的な会議を実施することで、看護職員の現状や効果的な確保策等を見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 連絡会議の開催1回 招へい委員数19名 								
アウトカムとアウトプットの関連	看護職員の資質向上、復職支援、雇用の質の確保などに関する取組を行うことで、離職防止・定着を推進し、看護職員数の増加を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)		
		(A+B+C)		285			190		
		基金	国(A)				(千円)	(千円)	
			都道府県(B)				(千円)		95
			計(A+B)				(千円)		285
その他(C)		(千円)	0	うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円)					
備考(注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	25	
事業名	No	32	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 108,115千円		
	地域医療支援センター運営事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県(一部、福島県立医科大学に委託)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	県内の医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に医師不足病院の医師確保の支援等を行う必要がある。						
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 医療施設従事医師数(人口10万人対) H28:195.7人⇒H30:204.9人⇒R2:212.3人⇒R4:R2の人数以上 (※R2の公表はR3.12を予定) 					
事業の内容	県内の医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に医師不足病院の医師確保の支援等を行うことにより、医師の不足及び地域偏在の解消を図る。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療支援センターの運営:1か所 地域卒卒業医師数に対するキャリア形成プログラム 参加医師数の割合:100% 医師派遣・あっせん数:20人 						
アウトカムとアウトプットの関連	県内の医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に医師不足病院の医師確保の支援等を行うことにより、医師の不足及び地域偏在の解消を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)
		(A+B+C)		108,115			71,725
		基金	国(A)	(千円)			352
			都道府県(B)	(千円)			
			計(A+B)	(千円)			
その他(C)	(千円)	0	うち受託事業等 (再掲)(注2) 352(千円)				
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	41		
事業名	No	33	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 40,658千円			
	ナースセンター事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県(福島県看護協会)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	看護職が不足する中で、看護職の資格を保有している潜在看護職の復職を促進することにより、看護職を確保する必要がある。							
	アウトカム指標	潜在看護職員及び離職した看護職員の復職を支援することで、看護職員の確保を図る。 ・看護職員数(人口10万対) R2:1,398.3人→R4:R2の人数以上						
事業の内容	看護職の資格を持った未就業者の就業促進のための職業紹介、巡回相談会によるマッチング促進及び離職した看護職の届出制度を活用した就業支援。							
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ナースセンター利用者:3,000名 ・就業者:180名 ・巡回相談会:月6回 ・看護職の働き方フォーラムの開催:1回 							
アウトカムとアウトプットの関連	潜在看護職員及び離職した看護職員が復職することで看護職員の確保が図られる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)		(千円)	基金充当額(国費)における公民の別(注1)	公	(千円)	
				40,658			民	(千円)
	基金	国(A)		(千円)		うち受託事業等(再掲)(注2)		(千円)
		都道府県(B)		(千円)				18,104
		計(A+B)		(千円)			9,053	
その他(C)		(千円)	27,157	(千円)				
		13,501	18,104					
備考(注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	40	
事業名	No	34	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,000千円		
	医療従事者招へい支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	(1) 専門研修基幹病院及び連携施設(対象職種:医師) (2) へき地診療所等を運営する市町村(対象職種:看護職)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	県内の医師及び看護職員の不足解消を図るため、医師確保計画等に基づく招へい取組を強化し、既存事業との相乗効果による安定的な確保を目指す。						
	アウトカム指標	(1) 医療施設従事医師数(人口10万対) H28:195.7人 → H30:204.9人 → R2:205.7人 → R4:205.7人以上 ※ 医師・歯科医師・薬剤師調査(隔年実施)による (2) 事業を活用したへき地診療所の看護職員の新規採用 R3年度1名 → R4年度:1名以上					
事業の内容	<p>県内医療機関等が行う医療従事者の招へい活動経費を支援する。</p> <p>1 補助対象</p> <p>(1) 医師 専門医研修基幹施設及び連携施設 (2) 看護職員 へき地診療所等を運営する市町村</p> <p>2 補助率</p> <p>1/2(補助上限額 500千円/件)</p>						
アウトプット指標	(1) 県外での医師招へい活動 2件/年 (2) 他市町村及び地域外に向けてのリクルート活動 4件/年						
アウトカムとアウトプットの関連	県外、地域外でリクルート活動を展開することにより、県内医療職員数の増加を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		2,000			666
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			667
		計(A+B)		(千円)			2,000
その他(C)		(千円)		(千円)			

備考（注3）	
--------	--

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	25		
事業名	No	35	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 22,000千円			
	人材育成・定着促進事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県立医科大学							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	本県は医師偏在指標において全国43位の医師少数県であり、更なる医師確保が必要な状況にあることから、県内臨床研修医を確保することでその後の県内定着につなげ県内医師の確保を図る。							
	アウトカム指標	・臨床研修医マッチングでの定員充足率 H27:60.4% → H28:63.0% → H29:71.4% → H30:74.5% → H31:59.3% → R2:61.6% → R3:68.5% → R4:68.5%以上						
事業の内容	福島県立医科大学が地域医療を担う中核病院と連携協力し、一体的な初期研修及び後期研修プログラムの作成等を行う場合に補助金を交付する。							
アウトプット指標	① 臨床研修病院群ネットワーク化事業(連絡会議3回) ② 臨床研修病院群合同説明会事業(合同説明会8回) ③ 臨床研修病院群合同研修会事業(研修会10回) ④ 臨床研修指導強化事業の実施(セミナー4回)							
アウトカムとアウトプットの関連	各種事業実施により県内臨床研修プログラムの充実、外部への情報発信、医師招へい活動等を実施し、県内臨床研修に応募する者が増加することでマッチングでの定員充足率増となる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		22,000		14,666		
		基金	国(A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
			計(A+B)			(千円)		(千円)
その他(C)		(千円)						
備考(注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	35	
事業名	No	36	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 26,805千円		
	新人看護職員研修事業(新人看護職員研修)						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	県内医療機関						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	看護職が不足する中、新人看護職員の研修を実施することで、新人看護職員の早期戦力化及び離職防止、定着化を図る必要がある。						
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 県内常勤看護職員離職率(病院看護実態調査より) H27:8.2% → H28:8.5% → H29:7.5% → H30:6.9% → R1:9.2% → R2・R3:(調査中) → R4:R1のポイント以下。 					
事業の内容	新人看護職員に対し研修を行う病院に対して、その研修にかかる経費の補助を行う。所属施設での研修機会の少ない新人看護職員も参加可能な集合研修を行う。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 新人看護職員が在籍する病院54施設に対する補助 研修参加数700名 						
アウトカムとアウトプットの関連	研修費への支援により新人看護職員が研修を受講することで、看護職員の確保と定着化が図られる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		(A+B+C)		26,805			
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		8,935			17,870
		計(A+B)		(千円)			26,805
	その他(C)		(千円)	0	(千円)	1,870	
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36			
事業名	No	37	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,113千円				
	新人看護職員研修事業(研修責任者等研修)								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	福島県(福島県看護協会)								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	看護職が不足する中で、教育指導者層の指導能力の向上により、新人看護職個々人の看護能力の向上を図る必要がある。								
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 県内常勤看護職員離職率(病院看護実態調査より) H27:8.2% → H28:8.5% → H29:7.5% → H30:6.9% → R1:9.2% → R2・R3:(調査中) → R4:R1のポイント以下。 							
事業の内容	新人看護職員研修体制の構築、企画及び評価に関することを研修担当者の階層別に研修を行う。								
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 教育担当者研修、実地指導者研修:各1回 教育担当者研修参加者数:80名、実施指導者研修参加者数:120名 								
アウトカムとアウトプットの関連	構築された研修体制による研修を受講することで、新人看護職の離職防止(定着化)を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)		(千円)	基金充当額(国費)における公民の別(注1)	公	(千円)		
				3,113			0		
		基金	国(A)			(千円)		民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)			2,075
			計(A+B)			(千円)			3,113
その他(C)		(千円)	0	うち受託事業等(再掲)(注2)	(千円)	2,075			
備考(注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	38	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 12,942千円		
	県内定着のための普及・啓発事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県(福島県看護協会)、県内医療機関						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	東日本大震災の影響による看護人材の県外への流出を防止、県外の看護人材の県内就業を働きかけ、人材の育成・確保・定着を図る。						
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> ・県内病院に勤務する看護職員の推移 R2:14,793人→R3:14,993人(R3年8月)→R4:R3の人数以上 					
事業の内容	看護師等養成所の周知を図る募集案内の作成や進学相談会の開催及び病院の周知を図る合同説明会や病院見学、看護体験ならびにキャリアアップを図る実習受入の促進するための補助を行う。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・募集案内作成7,000部 ・進学相談会1回(参加者数200名) ・病院合同説明会(WEB開催1回・対面式1回) ・セミナー1回 ・病院見学バスツアー ・インターンシップ支援 ・実習受入補助7施設 						
アウトカムとアウトプットの関連	進学相談会や病院見学、看護体験等の実施により、看護職員の県外への流出防止及び定着が図られる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)		(千円)	基金充当額(国費)における公民の別(注1)	(千円)	
		国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			うち受託事業等(再掲)(注2)
		計(A+B)		(千円)			(千円)
		その他(C)		(千円)		8	(千円)
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	-	
事業名	No	39	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 6,418千円		
	地域医療体験研修事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	本県は医師偏在指標において全国43位の医師少数県であり、更なる医師確保が必要な状況にあることから、県内臨床研修医を確保することでその後の県内定着につなげ県内医師の確保を図る。						
	アウトカム指標	・臨床研修医マッチングでの定員充足率 H27:60.4% → H28:63.0% → H29:71.4% → H30:74.5% → H31:59.3% → R2:61.6% → R3:68.5% → R4:68.5%以上					
事業の内容	地域医療に関心のある医学生を対象に、へき地診療所等の地域医療の現場視察や地域住民との交流など体験の場を提供し、将来の地域医療の担い手を育成する						
アウトプット指標	・地域医療体験研修参加者 45名						
アウトカムとアウトプットの関連	地域医療体験研修に参加することで地域医療への先入観を払拭して理解を深め、福島県の地域の魅力を発見することで、県内臨床研修に応募する者の数が増え、臨床研修医マッチングでの定員充足率増となる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	公	(千円)
				6,418			4,278
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			2,140
		計 (A+B)		(千円)			6,418
	その他 (C)		(千円)		(千円)		
備考 (注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	25	
事業名	No	40	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 27,127千円		
	魅力的な臨床研修プログラム作成事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	県内基幹型臨床研修病院						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	本県は医師偏在指標において全国43位の医師少数県であり、更なる医師確保が必要な状況にあることから、県内臨床研修医を確保することでその後の県内定着につなげ県内医師の確保を図る。						
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研修医マッチングでの定員充足率 H27:60.4% → H28:63.0% → H29:71.4% → H30:74.5% → H31:59.3% → R2:61.6% → R3:68.5% → R4:68.5%以上 					
事業の内容	魅力的な臨床研修プログラムを作成し、県内の臨床研修を全国にPRするため、臨床研修病院の相互乗入れの推進や研修内容のさらなる充実化を図るとともに、医学生の臨床実習の受け入れなどを活用しながら広報活動を実施する。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 補助金交付件数：15病院 Webによる広報契約：1件 						
アウトカムとアウトプットの関連	魅力的な県内臨床研修プログラムを作成し、全国にPRすることで県内臨床研修医の確保を図る						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		(A+B+C)		27,127		18,084	
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			9,043
		計(A+B)		(千円)			27,127
その他(C)		(千円)		(千円)			
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	25				
事業名	No	41	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,233千円					
	臨床研修病院合同ガイダンス事業									
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域									
事業の実施主体	福島県									
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	本県は医師偏在指標において全国43位の医師少数県であり、更なる医師確保が必要な状況にあることから、県内臨床研修医を確保することでその後の県内定着につなげ県内医師の確保を図る。									
アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研修医マッチングでの定員充足率 H27:60.4% → H28:63.0% → H29:71.4% → H30:74.5% → H31:59.3% → R2:61.6% → R3:68.5% → R4:68.5%以上									
事業の内容	本県への臨床研修医の招へいを推進するため、県外医学生に対して県内臨床研修病院の見学に必要な旅費を支援する。									
アウトプット指標	・旅費の支援人数 25名									
アウトカムとアウトプットの関連	県外医学生に対し県内臨床研修病院を見学するための旅費を支援し、県内臨床研修医の確保を図る。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	公	(千円)			
				4,233			2,266			
		基金	国 (A)			(千円)		民	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)				
			計 (A+B)			(千円)				
		1,134								
		3,400			うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)				
		その他 (C)		(千円)			(千円)			
				833						
備考 (注3)										

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	41	
事業名	No	42	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 15,789千円		
	潜在看護師等再就業促進・緊急時確保事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県(福島県看護協会、研修協力施設)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	潜在看護職を対象に研修を行い、医療現場で不足する看護師等の人材確保、再就業の促進を図るとともに、新興感染症や頻発する大規模災害等の非常時の際に看護業務に従事する応援看護師の確保を図る。						
アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> ・県内常勤看護職員離職率(病院看護実態調査より) H27:8.2% → H28:8.5% → H29:7.5% → H30:6.9% → R1:9.2% → R2・R3:(調査中) → R4:R1のポイント以下。 ※病院看護実態調査は毎年5月～6月に2事業年度前の数値が公表されるため、R3の指標はR2が未公表である現時点では不明。 						
事業の内容	潜在看護師等の再就業促進や非常時における応援看護師等の確保のため、ナースバンク求職登録者を活用した潜在看護師等の情報整理、医療機関との連携による人材育成等を行う。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・再就業支援研修会:年4回、2日間 各12名受講 ・研修施設:28施設、就業者:30名 ・非常時看護研修:年3回程度、1日間 各回20名受講 ・研修施設:3施設 ・医療機関が実施する退職看護職員等に対する研修経費の補助:5施設 						
アウトカムとアウトプットの関連	再就業を希望する看護職が就業することで、看護職の確保を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)		(千円)	基金充当額(国費)における公民の別(注1)	(千円)	
				15,789			1,344
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			9,170
		計(A+B)		(千円)			15,772
その他(C)		(千円)	17	(千円)	8,503		

備考（注3）	
--------	--

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業			標準事業例	—		
事業名	No	43	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,705千円		
	臓器移植コーディネーター設置事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	臓器移植の円滑な実施を図り、県内各医療機関への周知及び院内体制整備、また、県民一般への普及啓発を推進するために、臓器移植コーディネーターの設置が必要。						
アウトカム指標	臓器移植コーディネーターの育成が図られることにより、円滑に臓器移植を進めることができ、移植件数の増加が見込まれる。 ・脳死下移植件数 R3:2件→R4:2件以上						
事業の内容	臓器移植コーディネーターを育成する。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県臓器移植コーディネーターの設置 1人 ・院内コーディネーター研修会の開催 2回(参加者50人) 						
アウトカムとアウトプットの関連	臓器移植コーディネーターを養成することにより、円滑な臓器移植が実施できる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円)	
		国 (A)		(千円)			民 (千円)
		都道府県 (B)		(千円)			
		計 (A+B)		(千円)			
		その他 (C)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
					3,803		
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—				
事業名	No	44	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,780千円					
	DMAT研修等派遣事業									
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域									
事業の実施主体	福島県									
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	局地災害等に対応できる医療従事者等を養成することにより、災害医療体制の強化及び一層の充実を図る。									
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 災害医療に精通した医療従事者数の増加 福島県DMAT隊員数 R3:303人→R4:323人(+20人) 								
事業の内容	県内で災害医療に必要な知識や専門的な技能を習得するため、県主催による研修及び訓練を実施する。									
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 研修会等の実施回数 研修会:3回、訓練:1回 									
アウトカムとアウトプットの関連	災害医療に対応する医療従事者を養成することにより、災害時医療の充実が図られる。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)		(千円)	基金充当額(国費)における公民の別(注1)	公	(千円)			
				4,780		3,186				
		基金	国(A)				(千円)	民	(千円)	
			都道府県(B)				(千円)			
			計(A+B)				(千円)			
		4,780			うち受託事業等(再掲)(注2)	(千円)				
		その他(C)		(千円)						
備考(注3)										

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	49	
事業名	No	45	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 15,572千円		
	医療勤務環境改善支援センター事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県(福島県医師会)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	医療従事者の不足が深刻な本県において、医療提供体制の確保を図るためには、医療従事者の勤務環境を改善し負担軽減を図っていくことが必要。						
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の常勤医師数(各年12月1日現在) H29:2,156人 → H30:2,196人 → R1:2,231人 → R2:2,215人 → R3:2,240人 → R4:R3の人数以上 					
事業の内容	改正医療法(H26.10.1施行)に基づき、医療従事者の勤務環境改善に取り組む医療機関のニーズに応じた総合的・専門的な支援を行う「医療勤務環境改善支援センター」を設置・運営する。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保険労務士等による訪問又は支援:24件/年以上 ・センターの支援により勤務環境改善計画を策定する医療機関数:1施設以上 						
アウトカムとアウトプットの関連	センターの活動を通じて、医療従事者の勤務環境改善・医師の負担軽減等が図られることにより、常勤医師の定着・増加が図られる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		15,572			
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			10,381
		計(A+B)		(千円)			5,191
	その他(C)		(千円)	15,572	うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)	10,381
			0				
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	50		
事業名	No	46	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 168,355千円			
	病院内保育所運営費補助事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	県内医療機関							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	原子力災害等の影響による離職や県外流失で減少した看護職員の確保・定着、勤務環境の改善等により「効率的かつ質の高い医療提供体制の構築」を図る。							
	アウトカム指標	・看護職員数(人口10万対)(看護職員就業届出状況、隔年実施) R2:1,398.3人→R4:R2の人数以上						
事業の内容	子供を持つ看護職員など病院職員の離職防止及び未就業看護職員等の再就業の促進を図るため、医療機関が行う院内保育事業について、その運営費の一部を支援する。							
アウトプット指標	・病院内保育事業の実施医療機関 24施設							
アウトカムとアウトプットの関連	看護職員が働きやすい職場環境を整備し、看護職員の確保・定着を推進することで、看護職員数の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)		(千円)	基金充当額(国費)における公民の別(注1)	(千円)		
				168,355				
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)	
				71,076				
		都道府県(B)		(千円)				
		35,538			71,076			
計(A+B)		(千円)				うち受託事業等(再掲)(注2) (千円)		
		106,614						
その他(C)		(千円)						
		61,741						
備考(注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	32	
事業名	No	47	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 24,308千円		
	女性医師等就労環境改善事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	女性医師等の就業環境改善を行う県内病院						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	原子力災害等の影響による県外流出などにより、本県の医師不足は深刻であることから、女性医師等の就業環境改善を通じて、医療機関における仕事と家庭の両立ができる働きやすい職場環境を整備する必要がある。						
	アウトカム指標	医師・歯科医師・薬剤師調査に基づく医療施設従事医師数のうち女性の数 H26:531人→H28:553人→H30:616人→R2:628人→R4:628人以上					
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 復職研修への支援 出産や育児等のため離職した女性医師等を対象に復職研修を実施する病院に対し、経費の一部を補助する 勤務条件緩和への支援 育児中の女性医師等を対象とした勤務条件の緩和(当直・オンコール待機等の免除、短時間勤務の実施など)に取り組む病院に対し、経費の一部を補助する。 働きやすい職場環境の整備 保育所以外の育児支援(ベビーシッター等の雇上等)に要する経費の一部を補助 						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 就労環境改善を行う県内病院 4か所 補助先が活用する事業数 4件 						
アウトカムとアウトプットの関連	仕事と家庭の両立ができる働きやすい職場環境の整備を通じて、女性医師の離職防止や再就業支援が図られる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	(千円)	
				24,308			
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			8,102
		計 (A+B)		(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)	
				12,154			

		その他 (C)	(千円) 12,154			(千円)
備考 (注3)						

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	46		
事業名	No	48	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 30,000千円			
	看護師勤務環境改善施設整備費補助事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	県内医療機関							
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	看護師の離職が多く、安定した医療を提供することが困難な状況であるため、看護職員の働きやすい職場環境へ改善する必要がある。							
	アウトカム指標	・看護職員数(人口10万対)(看護職員就業届出状況、隔年実施) R2:1,398.3人 → R4:R2の人数以上						
事業の内容	看護師の勤務環境を改善する施設整備に対する費用の補助を行う。							
アウトプット指標	・施設整備 2施設							
アウトカムとアウトプットの関連	看護師の勤務環境改善により、働きやすい職場環境が生まれ、離職防止が図られる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		30,000				
		基金	国(A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)		4,246
			計(A+B)			(千円)		6,369
その他(C)		(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)			
			23,631					
備考(注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	43	
事業名	No	49	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,360千円		
	看護師等宿舎施設整備補助事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	県内医療機関						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	看護師の離職が多く、安定した医療を提供することが困難な状況であるため、看護職員の働きやすい職場環境へ改善する必要がある。						
	アウトカム指標	・看護職員数(人口10万対)(看護職員就業届出状況、隔年実施) R2:1,398.3人 → R4:R2の人数以上					
事業の内容	看護職員の個室整備をする施設整備に対する費用の補助を行う。						
アウトプット指標	・施設整備 1施設						
アウトカムとアウトプットの関連	看護職員の個室整備をするための看護師等宿舎施設整備により、離職防止が図られる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			746
			計 (A+B)	(千円)			374
		その他 (C)	(千円)	1,120		うち受託事業等 (再掲) (注2)	
			2,240		(千円)		
備考 (注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	41		
事業名	No	50	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 994千円			
	看護職ワークライフバランス推進事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県(福島県看護協会)							
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	看護職員が不足する中、看護体制の確保を図るため、看護職の勤務環境を改善し、負担軽減を図っていくことが必要である。							
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 県内常勤看護職員離職率(病院看護実態調査より) H27:8.2%→H28:8.5%→H29:7.5%→H30:6.9%→R1:9.2%→R2・R3:(調査中) →R4:R1のポイント以下。 						
事業の内容	医療機関における勤務環境改善するため研修会を開催し、講師等を医療機関に派遣する。							
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 研修会開催:1回 参加者:20名 講師派遣:1施設以上 							
アウトカムとアウトプットの関連	様々な勤務体制等働きやすい職場環境を提供することで、看護職の確保と定着化を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)		(千円)	基金充当額(国費)における公民の別(注1)	公	(千円)	
				994			0	
		基金	国(A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)		662
			計(A+B)			(千円)		994
その他(C)		(千円)	0	うち受託事業等(再掲)(注2)	(千円)			
					662			
備考(注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	37		
事業名	No	51	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 740千円			
	看護補助者活用推進事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	福島県(福島県看護協会)							
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	看護職員に対する専門性が求められている中、看護職員の業務負担軽減、離職防止及び看護の質の向上のため、看護管理者を対象とした看護補助者に対する効果的なマネジメントが不可欠である。							
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 看護職員の離職率の減 県内常勤看護職員離職率(病院看護実態調査より) H28: 8.2% → H29: 8.5% → H30: 7.5% → R1: 6.9% → R2: 9.2% → R3: (調査中) → R4: R2のポイント以下						
事業の内容	病院等の看護管理者に対する、看護補助者の活用方法、看護サービス管理能力向上を目的とした研修2日間×1回							
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 県看護協会研修開催1回(2日間) 受講者50名程度 							
アウトカムとアウトプットの関連	看護管理者を対象とした看護補助者活用に関する研修を実施し、看護補助者を有効に活用できる看護管理者の増加を図る。看護補助者の有効活用により、看護職員の業務負担軽減を図り専門性が発揮できる環境を創出し、看護職の離職防止を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)		(千円)	基金充当額(国費)における公民の別(注1)	(千円)		
				740				
	基金	国(A)		(千円)			民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)				493
		計(A+B)		(千円)				740
その他(C)		(千円)	493					
備考(注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—			
事業名	No	52	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,707千円				
	看護補助者養成事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域								
事業の実施主体	福島県(事業者委託)								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	原始力災害の影響により、医療機関では看護職員だけでなく看護補助者も不足している。看護職員が専門的な業務に従事出来る環境を整え離職を防止し、医療提供体制の充実を図るため看護補助者の養成・確保が求められている。								
	アウトカム指標	毎年度県内で講習会受講者15人以上の就業を目指し、うち浜通りに5人以上勤務							
事業の内容	県内各地で看護補助者養成講習会を実施するとともに、講習修了者を医療機関へ紹介を行う。特に人材確保が難しい相双地域においては、市政だよりや回覧板など広く住民に周知し、当該地域からの受講者を募るとともに、他の地域の受講者についても相双地域への就業を呼びかける。								
アウトプット指標	・講習会受講者数：毎年度 計50人以上								
アウトカムとアウトプットの関連	看護補助者としての基礎知識を持った人材を養成し、医療機関への就業につなげることにより、看護職が専門的な業務に専念できる環境を構築する。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円)			
				4,707			民 (千円)		
		基金	国 (A)					(千円)	
			都道府県 (B)					(千円)	3,138
			計 (A+B)					(千円)	1,569
		4,707	うち受託事業等 (再掲) (注2)						
その他 (C)		(千円)	0	(千円)	3,138				
備考 (注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	25		
事業名	No	53	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 7,940千円			
	過疎地域等医師研修事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県(公立大学法人福島県立医科大学)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	従来からの医師の絶対数の不足及び診療科の偏在に加え、東日本大震災及び原子力災害の影響による医師の県外へ流出などにより、過疎地域はもとより県内各地域における医療の確保が厳しいことから、医師等医療従事者の県内定着の促進と不足する診療科を支援する人材の育成により、本県の医療体制の充実強化を図る。							
	アウトカム指標	・医療施設従事医師数(人口10万対) H28:195.7人 → H30:204.9人 → R2:205.7人 → R4:R2の人数以上 (※R4の公表はR5.12を予定)						
事業の内容	過疎地域等の医療を担う人材の育成と地域医療を担う医師の幅広い診察能力(プライマリ・ケア能力)向上を図る研修会等を委託する。							
アウトプット指標	・研修会、講習会等の開催12回 ・参加者数350名							
アウトカムとアウトプットの関連	医師等医療従事者に対して、地域医療に必要な知識・技術の習得・向上のための各種研修会等を実施し、医師等医療従事者の県内定着の促進と不足する診療科を支援する人材の育成により、本県の医療体制の充実強化を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		7,940				
		基金	国(A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)		5,293
			計(A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
7,940		(千円)	5,293					
その他(C)		(千円)						
備考(注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36			
事業名	No	54	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 7,215千円				
	医療機関における看護力向上支援事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	福島県(福島県看護協会)								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	医療機関における看護職員に対する研修により、看護の質の向上や離職防止を図り、原子力災害等の影響による離職や県外流出で減少した看護職の安定的な養成・確保を進める。								
	アウトカム指標	・県内常勤看護職員離職率(病院看護実態調査より) H28:8.2% → H29:8.5% → H30:7.5% → R1:6.9% → R2:9.2% → R3:(調査中) → R4:R2のポイント以下							
事業の内容	医療機関のニーズに応じた認定看護師等を講師として定期的に派遣し、感染管理や医療安全管理における看護実践能力を高めるための研修を実施する。								
アウトプット指標	・医療機関10か所程度 ・認定看護師等を5回(1~2回/月)派遣								
アウトカムとアウトプットの関連	看護職員の職務意欲を向上させ、離職防止及び定着促進を図ることで、看護職員数の増加を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)		(千円)	基金充当額(国費)における公民の別(注1)	公	(千円)		
				7,215			6		
		基金	国(A)			(千円)		民	(千円)
						4,810			
			都道府県(B)			(千円)			
計(A+B)		(千円)	7,215		うち受託事業等(再掲)(注2)	(千円)			
その他(C)		(千円)	0			4,804			
備考(注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	39		
事業名	No	55	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 259,789千円			
	民間立看護師等養成所運営費補助事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	県内看護師等養成所							
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	原子力災害等の影響による離職や県外流失で減少した看護職の安定的な養成・確保の推進により、「効率的かつ質の高い医療提供体制の構築」を図る。							
	アウトカム指標	・看護職員数(人口10万対)(衛生行政報告例、隔年実施) R2:1,398.3人 → R4:R2の人数以上						
事業の内容	看護職員を養成・確保するため、保健師助産師看護師法に基づく指定を受けた看護師等養成所の運営に要する経費を支援する。							
アウトプット指標	・看護師等養成所の運営支援 15課程(13施設)							
アウトカムとアウトプットの関連	看護師等養成所の運営を支援し教育体制の充実・強化を推進することで、看護学生の県内医療機関への就業及び定着を促進し、看護職員数の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)		(千円)	基金充当額(国費)における公民の別(注1)	公	(千円)	
		国(A)		(千円)			民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)				164,506
		計(A+B)		(千円)				82,254
		その他(C)		(千円)				246,760
		(千円)	13,029	うち受託事業等(再掲)(注2)	(千円)			
備考(注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36	
事業名	No	56	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 491千円		
	専任教員等再教育研修会経費						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県(福島県看護学校協議会)						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	看護基礎教育に携わる専任教員及び臨地実習指導者が教育実践能力を高め、より良い学習環境を看護学生に提供することにより、県内医療機関への就業・定着を図る。						
	アウトカム指標	・県内の看護師養成所の入学定員に対する充足率の増 H30:83.6% → R1:83.4% → R2:76.5% → R3:81.5% → R4:81.5%以上					
事業の内容	教育実践能力を高めるため、看護師等養成所の専任教員及び臨地実習指導者を対象に、研修を実施する。						
アウトプット指標	・専任教員及び臨地実習指導者を対象とした研修会: 2回 ・目標受講者数: 各50名						
アウトカムとアウトプットの関連	質の高い看護教育を行い、教育体制を充実・強化することで、看護学生の県内医療機関への就業及び定着を促進し、看護職員数の増加を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	公	(千円)
				491			0
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			327
		計 (A+B)		(千円)			491
その他 (C)		(千円)	0		(千円)	327	
備考 (注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	39			
事業名	No	57	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 30,243千円				
	看護教育体制強化支援事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	県内看護師等養成所、福島県看護学校協議会								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	看護職が不足する中で、実習指導教員の配置や看護学生の教育研究活動により資質の高い看護職を養成することが必要。								
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 養成所卒業者のうち就業した者の県内就業率の増(14条報告より) H28:78.8% → H29:83.6% → H30:78.2% → R1:74.5% → R2:80.1% → R3:81.0% → R3年度以上の数値 							
事業の内容	高度化する医療に対応できる資質の高い看護師を養成するため、実習指導教員の人件費、看護教育研究にかかる経費を支援する。								
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 実習指導教員13施設(13名) 他校教育実務研修60名 外部講師による学校運営マネジメント講演会(2回開催 各50名) 学外短期教育研修5名 								
アウトカムとアウトプットの関連	看護教育に係る教員の教授力向上により、教育体制を充実・強化することで、看護学生の県内医療機関への就業及び定着を促進し、看護教員数の増加を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		(A+B+C)		30,243					
		基金	国(A)				(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)				(千円)		
			計(A+B)				(千円)		
		30,243	うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)					
その他(C)		(千円)	0		(千円)				
備考(注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	58	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,500千円		
	作業療法士実習指導者養成講習会						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県作業療法士会						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	厚労省規定の養成施設指導ガイドラインの改訂に伴い、実習施設で指導にあたる者は一定の講習を受講する必要性が生じた。						
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 福島県内医療機関の作業療法士数(県作業療法士会より聴取) R1: 971名 → R3: 1,028 → R4: 1,028名以上 					
事業の内容	作業療法士養成施設の実習先の実習指導者養成講習会の開催経費を補助する。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 実習指導者講習会受講者数 R2: 92名 → R3: 96名 → R4: 96名以上 						
アウトカムとアウトプットの関連	実習指導者が必要な知識や技術を習得するための講習会開催経費を補助し、実習指導者の確保と資質向上及び実習学生の県内就業を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		国 (A)		(千円)		0	
		基金 (B)	都道府県			(千円)	民 (千円)
			(B)			834	
		計 (A+B)		(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
その他 (C)		(千円)	0	0			
備考 (注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	59	新規事業/継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,740千円		
	理学療法士実習指導者養成講習会						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県理学療法士会						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	厚労省規定の養成施設指導ガイドラインの改訂に伴い、実習施設で指導にあたる者は一定の講習を受講する必要性が生じた。						
	アウトカム指標	・福島県内医療機関の理学療法士会会員数(理学療法士会より聴取) R3:1,693名→R4:1,693名以上					
事業の内容	理学療法士養成施設の実習先の実習指導者養成講習会の開催経費を補助する。						
アウトプット指標	・実習指導者講習会受講者数 R4:300名以上						
アウトカムとアウトプットの関連	実習指導者が必要な知識や技術を習得するための講習会開催経費を補助し、実習指導者の確保と資質向上及び実習学生の県内就業を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	(千円)	
		国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			1,826
		計 (A+B)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		(千円)	0
			2,740			0	
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	-		
事業名	No	60	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 700千円			
	理学療法士等医療従事者確保推進事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	医療関係団体							
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	多様化、高度化する保健医療需要や疾病構造の変化、医療の高度化に対応するため、医療関係各職種の確保が必要となっている。							
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士新規申請数(医療人材対策室調べ) R3(暦年): 89件 → R4(暦年): R3の件数以上 						
事業の内容	医療関係団体が各職種の理解を深め、本県の医療人材確保につながるイベントを実施するための経費、またはイベントに参加するための経費を補助する。							
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 医療関係団体への経費補助 7団体 							
アウトカムとアウトプットの関連	医療関係団体への経費補助し、医療関係各職種への理解が促進することにより、免許取得者の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円)		
				700			民 (千円)	
		基金	国 (A)	(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			都道府県 (B)	(千円)				
			計 (A+B)	(千円)				
その他 (C)		(千円)	0					
備考(注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—		
事業名	No	61	新規事業/継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 122,606千円			
	保健師等修学資金貸与事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	福島県							
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	原子力災害の影響による医療従事者の流出等における理学療法士・看護師等の浜通りを中心とした不足の解消は本県の喫緊の課題である。また、避難生活等の長期化による各種健康指標の改善に引き続き対応していく必要があることから、看護師等医療従事者の安定的な確保と県内定着促進を図る。							
	アウトカム指標	アウトカム指標：保健師等修学資金貸与者の県内就業率 R2:79.8%→R3:調査中→R4：R2の率以上						
事業の内容	看護師等の医療従事者養成施設に在学し、卒業後県内指定施設で業務に従事しようとする者に対して修学資金を貸与することにより、看護師等の安定的な確保と定着を図る。							
アウトプット指標	養成施設に在学する学生に修学資金を貸与 令和4年度 204名(新規75名、継続129名)							
アウトカムとアウトプットの関連	養成施設に在学する学生に修学資金を貸与することにより、看護師等を輩出し、定着を促す。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		(A+B+C)		122,606			民	(千円)
	基金	国(A)		(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)		(千円)
		都道府県(B)		(千円)				81,737
		計(A+B)		(千円)				
その他(C)		(千円)	0					
備考(注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—		
事業名	No	62	新規事業/継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 179,009千円			
	理学療法士等修学資金貸与事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域							
事業の実施主体	福島県							
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	原子力災害の影響による医療従事者の流出等における理学療法士・看護師等の浜通りを中心とした不足の解消は本県の喫緊の課題である。また、避難生活等の長期化による各種健康指標の改善に引き続き対応していく必要があることから、理学療法士等医療従事者の安定的な確保と県内定着促進を図る。							
	アウトカム指標	理学療法士等修学資金貸与者の県内就業率 R2年度卒業生:80.4%→R3年度卒業生:調査中→R4:R2の率以上						
事業の内容	理学療法士等の医療従事者養成施設に在学し、卒業後県内指定施設で業務に従事しようとする者に対して修学資金を貸与することにより、理学療法士等の安定的な確保と定着を図る。							
アウトプット指標	養成施設に在学する学生に修学資金を貸与 令和4年度 257名(新規80名、継続157名)							
アウトカムとアウトプットの関連	養成施設に在学する学生に修学資金を貸与することにより、理学療法士等を輩出し、定着を促す。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		179,009		0		
		基金	国(A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)			59,670		119,339
			計(A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)	0	(千円)	0			
備考(注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	63	新規事業/継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 35,525千円		
	地域医療医師確保修学資金貸与事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	福島県						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	原子力災害の影響により、特に浜通りの医療機関では、医師の県外流出や避難先における避難住民や原発作業員等の増加による医療需要の増大等により医師の不足が深刻であり、研修医の確保を通じて浜通りを中心に医師が不足する被災地における医師の確保や定着を図る必要がある。						
	アウトカム指標	地域医療医師確保修学資金貸与者 ・令和3年度：1名、令和4年度以降：各年2名に貸与					
事業の内容	<p>① 地域医療医師確保修学資金貸与事業</p> <p>将来、県内の公的医療機関等に医師として勤務しようとする公立大学法人福島県立医科大学医学部の学生及び、本県地域枠の設定により医学部定員を増員している帝京大学医学部の学生に修学資金を貸与し、医師確保を図る。</p> <p>② 修学資金修学生支援事業</p> <p>地域医療医師確保修学資金等の貸与を受けている帝京大医学部生等に対して、定期的に面談を行うことで、県内での研修・勤務に対する不安を払拭させ、将来的な県内定着を図る。</p>						
アウトプット指標	地域医療医師確保修学資金修学医師の勤務配置 ・各年2名を医師が不足する医療機関に配置する。						
アウトカムとアウトプットの関連	地域医療医師確保修学資金貸与者を継続的に確保することで、将来的に修学医師の県内配置調整を行うことで、医師偏在・医師不足の解消を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		35,525			
	基金	国(A)	(千円)	23,683	民	(千円)	
		都道府県(B)	(千円)	11,842			23,683
計(A+B)	(千円)	35,525	うち受託事業等(再掲)(注2)				

		その他 (C)	(千円)			(千円)
備考 (注3)						

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	64	新規事業/継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 380,894		
	緊急医師確保修学資金貸与事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	福島県						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	原子力災害の影響により、特に浜通りの医療機関では、医師の県外流出や避難先における避難住民や原発作業員等の増加による医療需要の増大等により医師の不足が深刻であり、研修医の確保を通じて浜通りを中心に医師が不足する被災地における医師の確保や定着を図る必要がある。						
	アウトカム指標	<p>①緊急医師確保修学資金被貸与者 32名(令和3年度)⇒32名(令和4年度以降)※ (※貸与枠52名の内、震災後の臨時定員増員分20名を除く32名)</p> <p>②地域医療を担う医師・医学生交流会参加者 医師20名、医学生20名 計40名(令和4年度)</p>					
事業の内容	<p>①緊急医師確保修学資金貸与事業 将来県内の公的医療機関に医師として勤務しようとする公立大学法人福島県立医科大学医学部の学生に対し、修学資金を貸与することで医師の確保を図る。</p> <p>②修学資金被貸与医師等定着促進事業 修学資金被貸与医師等の内、県内就労義務を満了した医師に対して感謝の意を表するとともに、同席する医学生やその他修学資金被貸与医師等の県内定着に向けた意欲向上を図る。</p>						
アウトプット指標	緊急医師確保修学資金被貸与医師の勤務配置 ・各年60名						
アウトカムとアウトプットの関連	緊急医師確保修学資金被貸与医師の県内定着や被貸与医学生を継続して確保することで、県内に勤務配置する医師の安定確保を図ることで、県内の医療提供体制の改善につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		380,894			
	基金	国(A)	(千円)	253,929		民	(千円)
		都道府県(B)	(千円)	126,965			253,929

		計 (A+B)	(千円) 380,894			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)	(千円)			
備考 (注3)						

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	39			
事業名	No	65	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 8,904千円				
	実習時感染症予防対策支援事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	看護師等医療専門職養成校、看護師等医療専門職養成校の実習施設(病院)								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により従来のような実践的な実習が困難となっているため、養成校及び実習施設に対して実習時感染症対策経費を補助し、専門職養成のための教育環境を整備する。								
アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 養成所卒業者のうち就業した者の県内就業率の増(各年3月末) H29:83.6%→H30:78.2%→H31:74.5%→R2:80.1%→R3:81.0% →R3年度以上の数値 								
事業の内容	看護師等医療専門職養成校及びその養成校の実習施設(病院)に対し、学生実習実施のための感染予防対策に必要な経費を補助する。								
アウトプット指標	・補助対象件数(養成校、実習施設(病院))50件								
アウトカムとアウトプットの関連	実習時感染症予防対策経費を補助し、実習環境を充実・強化することで、看護学生の県内医療機関への就業及び定着を促進し、看護職員数の増加を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		(A+B+C)		8,904		0			
		基金	国(A)	(千円)		5,936	民	(千円)	
			都道府県(B)	(千円)				2,968	5,936
			計(A+B)	(千円)				8,904	うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)	(千円)	0	0						
備考(注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	66	新規事業/継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 10,000千円		
	専門研修設備整備支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	福島県						
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	平成30年度から専門医制度が更新されたことに伴い、研修プログラムに定めのある研修施設でのプログラム履修が原則となったことから、県内全域において不足している研修施設の増加を図ることにより、専攻医の地域偏在解消につなげる。						
	アウトカム指標	専門研修基幹施設(新設)数 R3:1施設⇒R4以降:3施設					
事業の内容	県内医療機関が新たに専門研修施設として新設されるために必要な備品購入費等設備整備費の一部を補助する。						
アウトプット指標	年間補助件数:3件						
アウトカムとアウトプットの関連	専門研修施設の認定に必要な設備整備費を補助することで、研修施設の新設促進を促す。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		(A+B+C)		10,000		6,666	
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			3,334
		計(A+B)		(千円)			10,000
その他(C)		(千円)		(千円)			
備考(注3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36				
事業名	No	67	新規事業/継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 18,453千円					
	看護教員養成講習会									
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域									
事業の実施主体	県(福島県看護協会)									
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	看護師養成所の専任教員を養成し、質の高い教育環境を提供することにより、県内の看護師養成所への入学者を確保する。									
	アウトカム指標	県内の看護師養成所の入学定員に対する充足率の増 H30:83.6% → R1:83.4% → R2:76.5% → R3:81.5% → R4:81.5%以上								
事業の内容	看護師等養成所の専任教員となる予定の者を対象に、講習会を実施する。									
アウトプット指標	福島県看護協会:7か月間(5月～11月)、30名定員									
アウトカムとアウトプットの関連	専門的な教育を行い、教育体制を充実・強化することで、看護師養成所への入学者数の増加を図る。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)			
		(A+B+C)		18,453			0			
		基金	国(A)				(千円)	12,302	(千円)	
			都道府県(B)				(千円)			12,302
			計(A+B)				(千円)			うち受託事業等 (再掲)(注2)
18,453		(千円)	12,302							
その他(C)		(千円)	0	(千円)	12,302					
備考(注3)										

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	68	新規事業/継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 17,146千円		
	総合診療医養成支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	公立大学法人福島県立医科大学						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	県内のへき地等過疎中山間地域において、高齢化に伴い多疾患併存患者の増加傾向に対応するため、より幅広い疾患に対応可能な総合診療医の養成を推進する必要があるため。						
	アウトカム指標	総合診療専門研修専攻医数 H30～R3:9名⇒R4以降年間6名の確保を目指す					
事業の内容	公立大学法人福島県立医科大学に設置されている「総合診療医センター」が行う総合診療医養成の取組にかかる経費の一部を補助する。						
アウトプット指標	総合診療医養成のための研修会等開催回数 ・年間6回の開催						
アウトカムとアウトプットの関連	医学生や臨床研修医に対して、総合診療医啓発のための研修会や勉強会等を開催することで、将来総合診療医を目指す医学生・若手医師の増加につながる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		(A+B+C)		17,146		11,430	
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			5,716
		計(A+B)		(千円)			17,146
その他(C)		(千円)		(千円)			
備考(注3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

- (注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。
- (注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

事業の区分	勤務医の働き方改革の推進に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	69	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 214,529千円		
	地域医療勤務環境改善体制整備事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県						
事業の実施主体	福島県						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	福島県においては、2024年4月からの医師に対する時間外労働の上限規制の適用開始に向け、医師の労働時間短縮を進める必要がある。						
	アウトカム指標	・時間外労働時間年間960時間超の医師が在籍する医療機関12病院(H31年調査時点) → 10病院(R4年)					
事業の内容	医師の労働時間短縮に向けた、総合的な取組を実施するための事業に必要な経費を支援する。						
アウトプット指標	・対象となる施設数 8病院						
アウトカムとアウトプットの関連	地域医療において特別な役割があり、かつ過酷な勤務環境となっている医療機関を対象とし、勤務医の労働時間短縮に向けた総合的な取組に要する経費を支援することで、勤務医の労働時間を短縮し、勤務医の働き方改革の推進を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	公	(千円)
				214,529			76,253
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			66,766
		計 (A+B)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
その他 (C)		(千円)	214,529	(千円)			
備考 (注3)							

3. 計画に基づき実施する事業

(事業区分3：介護施設等の整備に関する事業)

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業																	
事業名	【No.1 (介護分)】 小規模介護施設等整備事業	【総事業費(計画期間の総額)】 1,559,093千円																
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域																	
事業の実施主体	福島県																	
事業の期間	4年4月1日～5年3月31日																	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。																	
アウトカム指標	高齢者が可能な限り住み慣れた地域において住宅系サービス、施設居住系サービスの提供を受け、継続して日常生活を営むことができる。																	
事業の内容	<p>① 地域密着型サービス施設等の整備等に対する助成を行う。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">整備予定施設等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域密着型特別養護老人ホーム</td> <td style="text-align: right;">1施設</td> </tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td style="text-align: right;">4施設</td> </tr> <tr> <td>認知症高齢者グループホーム</td> <td style="text-align: right;">7施設</td> </tr> <tr> <td>看護小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td style="text-align: right;">2施設</td> </tr> <tr> <td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所</td> <td style="text-align: right;">3施設</td> </tr> <tr> <td>介護施設等の創設を条件に行う広域型施設の大規模修繕・耐震化</td> <td style="text-align: right;">1施設</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 介護施設等の開設・設置に必要な準備経費等に対して支援を行う。 ③ 介護サービスの改善を図るための既存施設等の改修に対して支援を行う。 ④ 介護従事者の働く環境を整備するため、介護施設等に勤務する職員の利用する宿舍整備の支援を行う。</p>				整備予定施設等		地域密着型特別養護老人ホーム	1施設	小規模多機能型居宅介護事業所	4施設	認知症高齢者グループホーム	7施設	看護小規模多機能型居宅介護事業所	2施設	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	3施設	介護施設等の創設を条件に行う広域型施設の大規模修繕・耐震化	1施設
整備予定施設等																		
地域密着型特別養護老人ホーム	1施設																	
小規模多機能型居宅介護事業所	4施設																	
認知症高齢者グループホーム	7施設																	
看護小規模多機能型居宅介護事業所	2施設																	
定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	3施設																	
介護施設等の創設を条件に行う広域型施設の大規模修繕・耐震化	1施設																	
アウトプット指標	・地域包括ケアシステムの構築に向けて、第8期介護保険事業支援計画等において予定している地域密着型サービス施設等の整備を行う。																	
アウトカムとアウトプットの関連	地域密着型サービス施設等の整備を行うことにより、65歳以上人口あたり地域密着型サービス施設等の定員総数を増とする。																	
事業に要する費用の額	事業内容	総事業費 (A+B+C) (注1)	基金		その他 (C) (注2)													
			国(A)	都道府県 (B)														
	①地域密着型サービス施設等の整備	(千円) 413,280	(千円) 275,520	(千円) 137,760	(千円) 0													

	②施設等の開設・設置に必要な準備経費	(千円) 967,739	(千円) 645,159	(千円) 322,580	(千円) 0		
	③介護サービスの改善を図るための既存施設等の改修	(千円) 122,574	(千円) 81,716	(千円) 40,858	(千円) 0		
	④介護職員の宿舍施設整備	(千円) 55,500	(千円) 37,000	(千円) 18,500	(千円) 0		
金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 1,559,903	基金充当額 (国費)における公民の別 (注3) (注4)	公	(千円) 0		
	基金	国 (A)			(千円) 1,039,395	民	うち受託事業等 (再掲) (千円)
		都道府県 (B)			(千円) 519,698		
		計 (A+B)			(千円) 1,559,903		
	その他 (C)	(千円) 0			1,559,903		
備考 (注5)							

(注1) 事業者が未定等のため、総事業費が不明の場合は、記載を要しない。

(注2) 事業者が未定で、事業者負担額が不明の場合は、記載を要しない。

(注3) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注4) 指定管理者制度の活用など設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。

(注5) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業	
事業名	【No.2 (介護分)】 新型コロナウイルス緊急対策事業(老人福祉施設)	【総事業費(計画期間の総額)】 178,736千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域	
事業の実施主体	福島県	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
背景にある医療・介護ニーズ	介護施設等における新型コロナウイルスの感染拡大防止	
アウトカム指標	施設内クラスターの発生防止等、施設内感染者数の減少を図る。	
事業の内容	<p>新型コロナウイルス感染症から県民の生命を守るため、感染防止に配慮した介護サービスの提供及び施設内において感染者等が発生した際の感染拡大のリスク低減を目的とした施設整備を行う。</p> <p>(1) 多床室の個室化に要する経費支援 (2) 簡易陰圧装置の設置に要する経費支援 (3) ゾーニング環境等の整備に要する経費支援</p> <p>①ユニット型施設の各ユニットへの玄関室設置によるゾーニング ②従来型個室・多床室のゾーニング ③2方向から出入りできる家族面会室の整備</p>	
アウトプット指標	新型コロナウイルス感染防止対策を講じる施設数を86施設増加させる。	
アウトカムとアウトプットの関連	感染拡大防止対策を講じる施設数を増加させることで、新規感染者数の減少を図る。	

事業に要する費用の額	事業内容	総事業費 (A+B+C) (注1)	基金		その他 (C) (注2)
			国(A)	都道府県 (B)	
	介護施設等における新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援事業	(千円) 178,736	(千円) 119,157	(千円) 59,579	(千円) 0
金額	総事業費(A+B+C)	(千円) 178,736	基金充当額 (国費)における 公民の別 (注3) (注4)	公	(千円) 0
	基金			民	
	国(A)	(千円) 119,157			
	都道府県(B)	(千円)			

			59,579			うち受託事業等 (再掲) (千円) 119,157
		計 (A+B)	(千円) 241,764			
		その他 (C)	(千円) 0			
備考 (注 5)						

(注1) 事業者が未定等のため、総事業費が不明の場合は、記載を要しない。

(注2) 事業者が未定で、事業者負担額が不明の場合は、記載を要しない。

(注3) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注4) 指定管理者制度の活用など設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。

(注5) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

3. 計画に基づき実施する事業

(事業区分5：介護従事者の確保に関する事業)

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 基本整備 (中項目) 基盤整備 (小項目) 介護人材確保対策連携強化事業(協議会設置等)						
事業名	【No.1(介護分)】 高齢者福祉施策推進会議・同圏域別協議会				【総事業費 (計画期間の総額)】 344千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	県						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る アウトカム指標：介護サービス従事者数の増						
事業の内容	・介護従事者の確保・定着に向けた総合的な取組を実施するため、有識者、行政機関、多職種団体、事業者団体等で構成する会議を設置し、人材確保・育成、労働環境改善等に関する取組の企画立案を行うとともに、検討した施策を実現するため、関係機関・団体等との連携・協働の推進を図る。						
アウトプット指標	・会議を9回開催する。						
アウトカムとアウトプットの関連	会議を開催し関係機関が情報を共有することにより介護従事者の確保・定着へ向けた総合的な取組体制の強化が図られる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 344	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 229	
	基金	国(A)	(千円) 229		民	(千円)	
		都道府県(B)	(千円) 115			うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)
		計(A+B)	(千円) 344			(千円)	
		その他(C)	(千円)			(千円)	
備考(注3)	R4事業規模(R元交付分750千円を含めた基金充当額)1,094千円						

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 地域における介護のしごと魅力発信事業					
事業名	【No.2 (介護分)】 地域における介護のしごと魅力発信事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 20,288千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域					
事業の実施主体	福島県					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る アウトカム指標：介護サービス従事者数の増					
事業の内容	学生の将来の職業選択に大きな影響を及ぼす進路指導担当者や保護者も含めた、多様な年齢層に向け発信するための経費や、地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進事業の実施					
アウトプット指標	①福祉介護の職場体験 250人 ②仕事説明会 25回 ③職場見学会 30施設 ④親子施設見学会 4施設 ⑤学校訪問 35回 ⑥マンガ冊子配付全小学5年生					
アウトカムとアウトプットの関連	多様な年齢層に介護や介護の仕事の魅力を発信していくことにより、介護や介護の仕事への理解を深め、介護人材のすそ野を拡大し、介護従事者数の増を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 20,288	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
	基金	国(A)	(千円) 13,526		民	(千円) 13,526
		都道府県(B)	(千円) 6,762			うち受託事業等 (再掲)(注2)
		計(A+B)	(千円) 20,288			(千円)
		その他(C)	(千円)			11,939
備考(注3)	R4事業規模(R元交付分1,350千円を含めた基金充当額)21,638千円					

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 地域の支え合い・助け合い活動に係る担い手確保事業					
事業名	【No.3 (介護分)】 地域の支え合い助け合い活動に係る担い手確保事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 4,471 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域					
事業の実施主体	県、市町村、医療介護団体、NPO、施設及び介護事業所、町内会等					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る アウトカム指標：－					
事業の内容	①助け合いによる生活支援の担い手養成研修会等の実施 ②高齢者の食応援（食育推進）事業 高齢者に必要とされる食の知識や技術を身に付ける機会を提供し、高齢者が健康を維持できるよう地域や家庭で活躍する介護人材を育成する。					
アウトプット指標	①活動団体 3 ②6回開催					
アウトカムとアウトプットの関連	・生活支援の担い手の養成研修を実施することにより、介護サービス従事者数の増を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 4,471	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
	基金	国 (A)	(千円) 2,981		民	(千円) 2,981
		都道府県 (B)	(千円) 1,490			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		計 (A+B)	(千円) 4,471			(千円)
		その他 (C)	(千円)			
備考 (注3)	R4事業規模 (R元交付分 206千円、を含めた基金充当額) 4,677千円					

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 地域の支え合い・助け合い活動継続のための事務手続き等支援事業						
事業名	【No.4 (介護分)】 地域の支え合い・助け合い活動継続のための事務手続き等支援事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 1,598 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	市町村、老人クラブ連合会等						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る						
	アウトカム指標：－						
事業の内容	地域の支え合い・助け合い活動の継続のために必要な書類作成等が難しい住民組織等に対して、「事務お助け隊」が各種事務作業の支援や必要な助言を行うことで、その活動の継続や活性化を支援するための経費に対して助成する。						
アウトプット指標	活動団体3						
アウトカムとアウトプットの関連	－						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円)	
		基金	国 (A)				(千円)
			都道府県 (B)				(千円)
			計 (A+B)				(千円)
		その他 (C)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		1,598		1,065			
		1,065		533			
		1,598		1,065			
備考 (注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業										
	(大項目) 参入促進 (中項目) 参入促進のための研修支援 (小項目) 介護未経験者に対する研修支援事業										
事業名	【No.5 (介護分)】 介護未経験者に対する研修支援事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 41,140 千円						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域										
事業の実施主体	県、市町村、医療・介護団体、NPO、施設及び介護事業所										
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日										
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る										
	アウトカム指標：介護サービス従事者数の増										
事業の内容	介護職員初任者研修の受講経費支援等										
アウトプット指標	・介護職員初任者研修の実施。 ①市町村 160人受講 ②高校生 70人受講 ③基金事業 600人受講										
アウトカムとアウトプットの関連	・受講者が資格を取得することで、介護サービス従事者数の増を図る。										
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)					
		(A+B+C)		41,140		公民	(千円)				
		基金	国(A)					(千円)	民	(千円)	
			都道府県(B)					(千円)			うち受託事業等 (再掲)(注2)
			計(A+B)					(千円)			
その他(C)		(千円)	1,935								
備考(注3)	R4事業規模(H27交付分2,497千円、R元交付分19,490千円、R2交付分42,110千円を含めた基金充当額)105,237千円										

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層(若者・女性・高齢者)の参入促進事業					
事業名	【No.6(介護分)】 多様な人材層(若者・女性・高齢者)に応じたマッチング機能強化事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 43,985千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域					
事業の実施主体	福島県					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標：介護サービス従事者数の増。					
事業の内容	・介護求職者を対象とした、就労説明会、就職マッチング面接会等を実施する。					
アウトプット指標	・ハローワーク相談支援9ヶ所 ・就職フェア・合同面接会年2回 ・求職者セミナー2回 他					
アウトカムとアウトプットの関連	・広く一般の方を対象に介護サービス事業への就労を支援することで、介護サービス従事者数の増を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 43,985	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
	基金	国(A)	(千円) 29,324		民	(千円) 29,324
		都道府県(B)	(千円) 14,661			うち受託事業等 (再掲)(注2)
		計(A+B)	(千円) 43,985			(千円) 29,324
		その他(C)	(千円)			
備考(注3)	R4事業規模(R元交付分171千円を含めた基金充当額)44,156千円					

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層(若者・女性・高齢者)の参入促進事業						
事業名	【No.7(介護分)】 介護現場における多様な働き方導入モデル事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 11,550千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標：多様な働き方の導入事業所数						
事業の内容	職員の業務量を洗い出し、見直しや再配分をすることで、人員増を伴わずに、「1日10時間の週4日勤務」導入の実現を目指し、残業時間の減や、ワークライフバランスの向上を図る						
アウトプット指標	実施事業所数3						
アウトカムとアウトプットの関連	・介護職のマイナスイメージの払拭や介護職員の満足度の向上を図り、将来的な介護サービス従事者数の増を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 11,550	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
	基金	国(A)	(千円) 7,700		民	(千円) 7,700	
		都道府県(B)	(千円) 3,850			うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円) 7,700
		計(A+B)	(千円) 11,550				
		その他(C)	(千円)			(千円) 7,700	
備考(注3)							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 介護に関する入門的研修、生活援助従事者研修の受講等支援事業								
事業名	【No.8 (介護分)】 介護に関する入門的研修の実施等からマッチングまでの一体的支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 5,221 千円					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	福島県、市町村								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。								
	アウトカム指標：介護サービス従事者数の増								
事業の内容	・介護未経験の一般の方を対象に介護に関する入門的研修の研修会と受講生を対象としたマッチングを実施する。								
アウトプット指標	150人受講								
アウトカムとアウトプットの関連	・介護に関する入門的研修の資格を取得し、基礎的な知識を習得した人材が増えることで、将来的な介護サービス従事者数の増を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		民	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)				(千円)	
						3,481			
備考 (注3)	R4事業規模 (R元交付分 2,497千円を含めた基金充当額) 7,718千円								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 介護に関する入門的研修、生活援助従事者研修の受講等支援事業								
事業名	【No.9 (介護分)】 介護分野への元気高齢者等参入促進セミナー事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 18,570 千円					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	福島県								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。								
	アウトカム指標：介護サービス従事者数の増								
事業の内容	・介護助手の活用を考えている施設を対象とした研修会を実施する。また、元気高齢者や子育てが一段落した方を対象とし、介護助手として就職するようマッチング支援を実施する。								
アウトプット指標	100 人就職								
アウトカムとアウトプットの関連	・介護助手として就職する人材が増えることで、既存職員の負担軽減と資質向上・定着につながり、将来的な介護サービス従事者数の増を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		民	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)			(千円)	12,380	
備考 (注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 将来の介護サービスを支える若年世代の参入促進事業								
事業名	【No.10 (介護分)】 将来の介護サービスを支える若年世代の参入促進事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 11,730 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	福島県、養成施設								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。								
	アウトカム指標：介護福祉士養成施設入学者数								
事業の内容	介護福祉士養成施設が実施する中学校や高校等への出前講座等の実施								
アウトプット指標	出前講座 30 回 施設体験 10 回								
アウトカムとアウトプットの関連	高校生を中心に、出前講座等を実施し、介護福祉士の継続確保を図ることで、入学者数の回復を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		民	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)			(千円)	7,820	
備考 (注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 外国人留学生及び特定技能1号外国人の受入環境整備事業								
事業名	【No.11 (介護分)】 外国人留学生への奨学金の給付等に係る支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 9,105千円					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	福島県								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。								
	アウトカム指標：介護福祉士養成施設への外国人留学生数。								
事業の内容	・外国人留学生への奨学金等を支給する介護施設等への支援								
アウトプット指標	20人奨学金支給								
アウトカムとアウトプットの関連	・外国人介護人材の受入体制を構築することで、将来的な介護サービス従事者数の増を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		民	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)			(千円)		
					6,070				
備考 (注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 外国人留学生及び特定技能1号外国人の受入環境整備事業							
事業名	【No.12 (介護分)】 外国人留学生及び特定技能1号外国人のマッチング支援事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 3,416千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。							
	アウトカム指標：介護福祉士養成施設への外国人留学生数。							
事業の内容	WEB 合同説明会の開催等のマッチング支援							
アウトプット指標	マッチング人数5名程度							
アウトカムとアウトプットの関連	・外国人介護人材の受入体制を構築することで、将来的な介護サービス従事者数の増を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		2,277
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		2,277		
		3,416						
備考 (注3)	R4事業規模 (R元交付分12,579千円を含めた基金充当額) 15,995千円							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 介護分野への就職に向けた支援金貸付事業								
事業名	【No.13 (介護分)】 介護分野就職支援金貸付事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 6,848 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	福島県								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。								
	アウトカム指標：定着率（返還免除件数／貸付件数）								
事業の内容	介護分野就労支援金（1回を限度、20万円）を貸し付ける								
アウトプット指標	129件								
アウトカムとアウトプットの関連	他職種で働いていた方等の介護分野への参入促進を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		民	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)			(千円)	4,565	
備考 (注3)	R4事業規模 (R3交付分 15,050千円を含めた基金充当額) 21,898千円								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質向上に資する事業 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業							
事業名	【No.14 (介護分)】 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 56,626 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	県、医療・介護団体、NPO、施設及び介護事業所							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。							
	アウトカム指標：介護サービス従事者の離職率							
事業の内容	① 介護職員等喀痰吸引等研修事業(医療的ケア教員講習) ② 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修事業 ③ ユニットケア型施設現地指導事業 ④ ホームヘルプパワーアップ作戦 ⑤ 福祉・介護人材育成確保支援事業							
アウトプット指標	① 25名修了 ② 1400人受講 ③ 4施設 ④ 480人受講 ⑤ 50人受講							
アウトカムとアウトプットの関連	・研修受講により必要な知識・技術の習得を図る							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		56,626		2,148		
		基金	国(A)			(千円)	公民の別 (注1)	(千円)
			都道府県(B)			(千円)		35,599
			計(A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)	5	698				
備考(注3)	その他5(一般財源) R4事業規模(R元交付分16,968千円を含めた基金充当額)73,594千円							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質向上に資する事業 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業							
事業名	【No.15 (介護分)】 介護支援専門員資質向上事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 62,681 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標：居宅介護支援の特定事業所加算の算定事業所数 【介護給付費等実態調査】							
事業の内容	・介護支援専門員として資格の取得・更新を行う者を対象に、実務に必要な知識や技術等の向上を図る研修を行う。 ①実務研修事業 ②再研修・更新研修(実務未経験者)事業 ③専門研修Ⅰ事業 ④専門研修Ⅱ事業 ⑤主任介護支援専門員研修事業 ⑥主任介護支援専門員更新研修事業 ⑦地域同行型研修事業 ⑧介護支援専門員従事者確保事業 ⑨ケアマネのための課題解決型業務サポート事業							
アウトプット指標	・研修回数、受講者 ①1回 110人 ②1回 200人 ③1回 180人 ④12回 600人 ⑤3回 120人 ⑥4回 200人 ⑦1回 10人 ⑧17回 1030人 ⑨6回 1200人							
アウトカムとアウトプットの関連	研修実施により必要な知識・技術を持つ介護支援専門員を養成できる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		62,681		0		
		基金	国(A)			(千円)	公民の別 (注1)	(千円)
			都道府県(B)			(千円)		14,070
計(A+B)		(千円)	21,105	うち受託事業等 (再掲)(注2)				

	その他 (c)	(千円)		(千円)
		41,576		14,070
備考 (注3)	その他 (国庫 1954、使手 39,620、諸 2)			

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質向上に資する事業 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 喀痰吸引等研修の実施体制強化事業							
事業名	【No.16 (介護分)】 喀痰吸引等研修の実施体制強化事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 4,457 千円			
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。							
	アウトカム指標：介護サービス従事者の離職率							
事業の内容	登録研修期間開設の際の初度経費を支援							
アウトプット指標	参加者 48 名							
アウトカムとアウトプットの 関連	研修受講により必要な知識・技術の修得を図る							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 4,457	基金充当 額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 0	
		基金	国 (A)			(千円) 2,971	民	(千円) 2,971
			都道府県 (B)			(千円) 1,486		うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)			(千円) 4,457		(千円) 2,971
		その他 (C)		(千円) 0				
備考 (注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質向上に資する事業 (中項目) 研修代替要員の確保支援 (小項目) 各種研修に係る代替要員の確保対策事業						
事業名	【No.17 (介護分)】 各種研修に係る代替要員の確保対策事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 284 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	福島県						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。						
	アウトカム指標：介護サービス従事者の離職率						
事業の内容	各種研修受講期間における代替職員の確保に要する経費の支援を行う						
アウトプット指標	代替職員 2 人						
アウトカムとアウトプットの関連	介護職員の資質向上と離職防止を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		公	0
			都道府県 (B)	(千円)			189
			計 (A+B)	(千円)			95
		その他 (C)	(千円)	284			189
うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)	0	0				
備考 (注3)	R 4 事業規模 (R 元交付分 249 千円を含めた基金充当額) 533 千円						

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質向上に資する事業 (中項目) 潜在有資格者の再就業促進 (小項目) 潜在介護福祉士の再就業促進事業							
事業名	【No.18 (介護分)】 潜在介護福祉士の再就業促進事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 1,984 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。							
	アウトカム指標：介護サービス従事者数の増。							
事業の内容	潜在介護福祉士が介護分野への再就業のための知識や技術を再確認するための研修等を実施して、潜在介護福祉士の再就職を図る。							
アウトプット指標	・30人受講							
アウトカムとアウトプットの関連	・潜在介護福祉士に対する円滑な再就業を支援することで、介護福祉士の確保が図られる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	0	
			都道府県 (B)	(千円)			民	(千円)
			計 (A+B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
		その他 (C)	(千円)			997		
備考 (注3)	R4事業規模 (R元交付分45千円を含めた基金充当額) 2,029千円							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 資質向上に資する事業 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業					
事業名	【No.19 (介護分)】 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 8,136 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域					
事業の実施主体	福島県					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。					
	アウトカム指標：認知症対応薬局整備数 219 薬局→230 薬局 認知症対応人材の増加が図られる					
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症介護基礎研修、認知症対応型サービス事業開設者研修。 ・管理者研修、小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 ・認知症介護指導者フォローアップ研修 ・認知症対応力向上研修会の開催 ・認知症対応薬局研修会の開催 ・認知症対応薬局のフォローアップ ・認知症対応薬局の普及啓発 ・介護サービス事業所の管理者等に対する、認知症ケアに必要な知識や技術を習得するための研修を実施する 					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症介護基礎研修 100 人受講 ・認知症対応型サービス事業開設者研修 20 人受講 ・認知症対応型サービス事業管理者研修 100 人受講 ・小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 50 人受講 ・認知症指導者フォローアップ研修 2 名派遣 ・認知症対応力向上研修会・認知症対応薬局研修会 300 人受講 					
アウトカムとアウトプットの関連	・認知症介護実践者及びその指導的立場にある者の認知症介護技術の向上、認知症介護の専門職員の養成により、認知症の人への対応可能者数の増加を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額	公 (千円)
		(A+B+C)		8,136		
		基金	国(A)	(千円)	(国費)	

			5,424	における 公民の別 (注1)	民	
		都道府県 (B)	(千円) 2,712			(千円) 5,171
		計(A+B)	(千円) 8,136			うち受託事業等 (再掲)(注2)
		その他(C)	(千円)			(千円) 5,172
備考(注3)	R4事業規模(R元交付分5,220千円を含めた基金充当額)13,356千円					

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質向上に資する事業 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業							
事業名	【No.20 (介護分)】 認知症施策推進事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 7,616 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。							
	アウトカム指標：認知症の対応力向上に関する研修会の開催及び受講支援							
事業の内容	認知症の対応力向上に関する研修会の開催及び受講支援							
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援関係者認知症対応力向上研修 年1回(圏域ごとに開催) ・かかりつけ医認知症対応力向上研修 年1回(50名程度) ・歯科医師の認知症対応力向上研修 年1回(100名) ・看護職員の認知症対応力向上研修 年1回(50名) ・病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修 年1回(100名) ・認知症サポート医養成研修 15名 ・認知症初期集中支援チーム員研修 20名 ・認知症地域支援推進員研修 60名 							
アウトカムとアウトプットの関連	認知症に対応可能な専門職を養成することにより、認知症の早期発見・早期対応を図る							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		7,616		2,762		
		基金	国(A)			(千円)	公民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)		2,315
計(A+B)		(千円)	7,616	うち受託事業等 (再掲)(注2)				

		その他 (c)	(千円)			(千円) 2,315
備考 (注3)						

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質向上に資する事業 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業							
事業名	【No.21 (介護分)】 福島県認知症サポーターパワーアップ事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 898 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。							
	アウトカム指標：市町村におけるチームオレンジに関する理解を図る。							
事業の内容	令和7年度までの全市町村等でのチームオレンジ設置を目的に、各市町村に対する支援の内容や課題について関係者と共に検討を行いながら、チームオレンジ設置に向けた研修会を実施する。							
アウトプット指標	市町村職員向け研修会等の開催。							
アウトカムとアウトプットの関連	市町村職員を対象とした研修会等を開催し、チームオレンジに関する理解を図ることで、チームオレンジの設置を支援する。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		898		599		
		基金	国(A)			(千円)	公民の別 (注1)	(千円)
			都道府県(B)			(千円)		0
			計(A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)	(千円)					
備考(注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質向上に資する事業 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築・推進に資する人材育成・資質向上事業						
事業名	【No.22 (介護分)】 地域包括ケアシステム構築・推進に資する 人材育成・資質向上事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 31,491 千円			
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	全県域						
事業の実施主体	県、市町村、医療・介護団体、NPO、施設及び介護事業所						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。						
	アウトカム指標：介護サービス従事者数の増						
事業の内容	①地域包括ケアシステム深化推進事業 ②生活支援体制整備推進事業 ③在宅医療・介護連携支援センター設置促進事業 ④その他地域包括ケアシステムに資する人材育成・資質向上事業						
アウトプット指標	①実施事業数 20 ②SC 養成研修 3回開催 ③配置センター 1						
アウトカムとアウトプットの 関連	・地域包括ケアシステム構築推進に資する人材育成と資質向上を図る。 ・生活支援コーディネーターに期待される機能と役割について、コーディネーター及び市町村担当者等の共通理解を深め、コーディネーター人材の育成と配置を図る。 ・在宅医療と介護関連の充実を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当 額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民 うち受託事業等 (再掲)(注2)	
		(A+B+C)		31,491			
		基金	国(A)				(千円)
			都道府県 (B)				(千円)
計(A+B)		(千円)	10,495	20,990			
			(千円)	31,485			

	その他 (c)	(千円) 6		(千円) 10,444
備考 (注3)	その他は諸収 6、R 4 事業規模 (R 元交付分 19,089 千円、R2 交付分 12,849 千円を含めた基金充当額) 63,429 千円			

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業										
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 権利擁護人材育成事業										
事業名	【No.23 (介護分)】 認知症高齢者等権利擁護人材育成事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 2千円						
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	全県域										
事業の実施主体	市町村										
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日										
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。										
	アウトカム指標：市民後見人候補者数の増加。										
事業の内容	・成年後見制度の下で身上監護等の支援を行う「市民後見人」の養成研修を実施する。										
アウトプット指標	・100人受講										
アウトカムとアウトプットの 関連	成年後見制度の下で身上監護等の支援を行う「市民後見人」の養成研修を行い、市民後見人候補者数の増を図る。										
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当 額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)				
		基金	国(A)				(千円)	1	(千円)		
			都道府県 (B)				(千円)			1	1
			計(A+B)				(千円)				
		その他(C)		(千円)			1	1			
備考(注3)	R4事業規模(R元交付分1,596千円を含めた基金充当額)1,598千円										

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 資質向上に資する事業 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 介護予防の推進に資する専門職種の指導者育成事業					
事業名	【No.24 (介護分)】 介護予防の推進に資する OT、PT、ST 指導者 育成事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 1 千円	
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	全地域					
事業の実施主体	リハビリテーション関係団体					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標：研修に参加した各種専門職の人数					
事業の内容	・OT、PT、ST に対して研修を実施して、介護予防の推進に資する指導者の育成を図る。					
アウトプット指標	・100人受講					
アウトカムとアウトプットの 関連	・研修の実施により介護予防事業に携わるリハビリテーション専門職の指導者の確保を進め、効果的な介護予防事業実施を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円)	基金充当 額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国(A)	(千円)		
			都道府県 (B)	(千円)	民	(千円)
			計(A+B)	(千円)		1
			その他(C)	(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円)
備考(注3)	R4事業規模(R元交付分1,064千円を含めた基金充当額)1,065千円					

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質向上に資する事業 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 介護施設等における防災リーダー養成等支援事業							
事業名	【No.25 (介護分)】 介護施設等における防災リーダー養成等支援事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 2,720 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る							
	アウトカム指標：介護サービス従事者の離職率							
事業の内容	① 県内介護施設・事業所を対象とした防災に関するオンライン研修会の実施 ② 要望する施設・事業所に対する実地研修(非常災害計画・避難確保計画の見直し、避難訓練のアドバイス、建物や周辺環境のリスクチェック、災害対策における地元との連携、職員への防災知識・心構え説明など)の実施							
アウトプット指標	① 1回 ② 14施設等							
アウトカムとアウトプットの関連	介護施設等における防災リーダー養成研修等を通じ、職員の防災知識が十分に普及されることにより、職員の資質の向上と離職防止を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	公民の別 (注1)	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		(千円)
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		(千円)	1,628	
備考 (注3)								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 長期定着支援 (小項目) 介護職員長期定着支援事業								
事業名	【No.26 (介護分)】 介護事業所におけるハラスメント対策推進事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 1,065 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全地域								
事業の実施主体	市町村								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る								
	アウトカム指標：介護サービス従事者の離職率								
事業の内容	介護事業所における利用者等からのハラスメントへの対策を推進するため、実態調査、各種研修、ヘルパー補助者の同行など、総合的なハラスメント対策を講じて介護職員の離職を防止するための事業を実施								
アウトプット指標	研修会1回 40名参加								
アウトカムとアウトプットの関連	総合的なハラスメント対策を講じて介護職員の離職を防止を図る								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	公	710	
			都道府県 (B)			(千円)		民	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)			(千円)		
備考 (注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 長期定着支援 (小項目) 介護職員長期定着支援事業								
事業名	【No.27 (介護分)】 若手介護職員交流推進事業				【総事業費 (計画期間の総額)】	3,156 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	福島県								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。								
	アウトカム指標：介護サービス従事者の離職率								
事業の内容	県内の福祉・介護施設等に新たに就職した職員を一同に集め、先輩職員から介護業務についての体験談やアドバイスを発表してもらうとともに、交流会を開催して参加者相互の親睦を深め、福祉・介護に対するモチベーションを高めてもらう。								
アウトプット指標	200人参加								
アウトカムとアウトプットの関連	介護職の魅力を確認し、若手介護人材の離職を防止し、職場定着を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		民	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)			(千円)		
			473			1,789			
備考 (注3)	その他は一般財源								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 人材育成力の強化 (小項目) 新人介護職員に対するエルダー、メンター制度等導入支援事業								
事業名	【No.28 (介護分)】 新人介護職員に対するエルダー、メンター制度等導入支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 6,392 千円					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	市町村								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。								
	アウトカム指標：介護サービス従事者の離職率								
事業の内容	新人介護職員が定着に資する制度実施のための研修会を開催する。								
アウトプット指標	50人参加								
アウトカムとアウトプットの関連	研修の実施により働きやすい職場環境の構築を支援し、介護職員の定着、離職防止を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			(千円)
		その他 (C)		(千円)				(千円)	
備考 (注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者に対する雇用管理改善方策普及・促進事業								
事業名	【No.29 (介護分)】 管理者に対する雇用管理改善方策普及・促進事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 22,549 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	県、市町村、医療・介護団体、NPO、施設及び介護事業所								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。								
	アウトカム指標：介護サービス従事者の離職率								
事業の内容	①人事管理等研修 ②新人職員OJT研修普及事業 ③専門課題別管理職研修 ④生産性向上の支援を行うモデル施設を選定し、県が委託した事業者が課題解決の伴走支援を行う。施設及び委託事業者が成果を報告し、事例の水平展開を図る。 ⑤その他労働環境及び処遇改善事業所の普及促進事業								
アウトプット指標	①3回 320名受講 ②3回 320名受講 ③7回 400名受講 ④1施設								
アウトカムとアウトプットの関連	・研修の実施により働きやすい職場環境の構築を支援し、介護職員の定着、離職防止を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		(A+B+C)		22,549		民	(千円) 15,033		
		基金	国(A)					(千円)	うち受託事業等 (再掲)(注2)
			都道府県(B)					(千円)	
計(A+B)		(千円)	22,549						

	その他 (c)	(千円)		(千円)
				15,033
備考 (注3)	R 4 事業規模 (R 元交付分 1,577 千円を含めた基金充当額) 24,126 千円			

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業							
事業名	【No.30 (介護分)】 介護ロボット導入支援事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 129,624 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。							
	アウトカム指標：介護サービス従事者数							
事業の内容	介護ロボットを広く一般の介護事業所による購入が可能となるように導入費用の一部を補助する。							
アウトプット指標	介護ロボット導入補助 160 台							
アウトカムとアウトプットの関連	介護従事者の負担軽減や効率化により、介護職員の定着、離職防止を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		86,416
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		(千円)	0	
			129,624			0		
備考 (注3)	R4 事業規模 (R元交付分 376 千円を含めた基金充当額) 130,000 千円							

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業									
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業									
事業名	【No.31 (介護分)】 ICT 導入支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 78,000 千円						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域									
事業の実施主体	福島県									
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。									
	アウトカム指標：介護サービス従事者数									
事業の内容	介護職員の離職防止と定着促進を図るため、生産性向上に資するICT等の導入費用の一部を補助する。									
アウトプット指標	ICT 導入補助 30 施設									
アウトカムとアウトプットの関連	介護従事者の負担軽減や効率化により、介護職員の定着、離職防止を図る。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)				
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)		
			都道府県 (B)			(千円)			民	(千円)
			計 (A+B)			(千円)				
		その他 (C)		(千円)		0	0			
備考 (注3)										

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業								
事業名	【No.32 (介護分)】 介護事業所に対する業務改善支援事業				【総事業費 (計画期間の総額)】	3,000 千円			
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	福島県								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。								
	アウトカム指標：介護サービス従事者数								
事業の内容	生産性向上ガイドラインに基づき業務改善に取り組む介護事業所に対して、第三者から取組の支援を受けるための費用を補助する。								
アウトプット指標	業務改善補助 10 施設								
アウトカムとアウトプットの 関連	介護従事者の負担軽減や効率化により、介護職員の定着、離職防止を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当 額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
		(A+B+C)		3,000			0		
		基金	国(A)			(千円)	公民の別 (注1)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		2,000	
			計(A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)
その他(C)		(千円)	0	0					
備考(注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 子育て支援 (小項目) 介護従事者の子育て支援のための施設内保育施設運営支援事業								
事業名	【No.33 (介護分)】 介護従事者の子育て支援のための施設内保育施設運営支援事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 4,682 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	施設及び介護事業所								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。								
	アウトカム指標：介護サービス従事者の離職率								
事業の内容	・介護事業所における保育施設の運営を支援する。								
アウトプット指標	・2 法人支援								
アウトカムとアウトプットの関連	・介護事業所で働きながら子育てのできる環境を構築することで、人材の確保・定着を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		民	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)				(千円)	
備考 (注3)	R4 事業規模 (R元交付分 1,177 千円を含めた基金充当額) 5,859 千円								

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 外国人介護人材受入れ環境整備 (小項目) 外国人介護人材受入れ施設等環境整備事業								
事業名	【No.34 (介護分)】 外国人介護人材受入れ施設等環境整備事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 4,000 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域								
事業の実施主体	施設及び介護事業所								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。								
	アウトカム指標：介護施設等の外国人介護人材数								
事業の内容	外国人介護人材を受け入れる(予定を含む)介護施設等において外国人介護人材の受入環境整備を推進する。								
アウトプット指標	コミュニケーション支援等の実施施設数 20 施設								
アウトカムとアウトプットの関連	外国人介護人材の受入に対する不安が解消されることで、介護施設等が受入れに対し前向きに検討できる環境整備が図られる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		民	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)				(千円)	
備考 (注3)									

令和4年度地域医療介護総合確保基金(介護分)個別事業調書

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 緊急時介護人材等支援 (小項目) 新型コロナ流行下における介護サービス事業所等のサービス提供確保事業							
事業名	【No.35 (介護分)】 新型コロナウイルス対策事業 (介護サービス提供体制継続支援事業)				【総事業費 (計画期間の総額)】 0千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全県域							
事業の実施主体	福島県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	・高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。							
	アウトカム指標：－							
事業の内容	新型コロナウイルス感染症等が発生した介護サービス事業所・施設等に対してかかり増し経費を助成すること等により、利用者や家族の生活に欠かせない介護サービスの継続を支援する。							
アウトプット指標	補助実施事業所・施設等数 43施設							
アウトカムとアウトプットの関連	新型コロナウイルス感染症等が発生した介護サービス事業所・施設等に対してかかり増し経費を助成すること等により、利用者や家族の生活に欠かせない介護サービスの継続を支援する。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		0
			計 (A+B)			(千円)		0
		その他 (C)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)	
備考 (注3)								
R4事業規模 (R3交付分 287,077千円を含めた基金充当額) 287,077千円								